



信州大学 (長野県)

豊かな自然。地域とのふれあい。実践に則した日本語が学べます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

信州大学は8学部（人文、教育、経法、理、医、工、農、繊維）、5大学院研究科（総合人文社会科学、教育学、総合理工学、医学系、総合医理工学）を擁する総合大学です。松本・長野・上田・伊那に5つのキャンパスがあり、学部学生約9,000名、大学院生約2,000名、計約11,000名が学んでいます。そのほかにグローバル化推進センター、6つの研究領域で特色のある最先端の研究を行う先鋭領域融合研究群などの教育・研究施設があります。キャンパスのある各地域は、豊かな自然環境と伝統ある教育環境に恵まれ、独自の発展をみせています。



松本キャンパスの中央図書館

信州大学は各地域の発展のために教育的にも経済的にも大きな貢献をしています。そのため、日本の大学の「地域貢献度ランキング」では、常に日本のトップを争うほどの高い評価を受け続けています。

② 国際交流の実績

海外の大学との学術交流協定（2025年8月1日現在）
大学間協定：119大学 学部間協定：86大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数336人、日研生6人
2024年：留学生数342人、日研生6人
2023年：留学生数325人、日研生4人

④ 地域の特徴

本学は、「信州」という日本国内で有名な山岳リゾートに位置しており、日本のほぼ中央にあります。高い山々に囲まれ、四季折々の景色が美しく自然豊かな地域です。登山に関しては日本一であり、国立公園や高原、山々など、自然の中に簡単に入って楽しんだりフィールドワークを行うことができます。歴史を感じさせる古城や神社仏閣が多くあるほか、豊富な温泉も長野県の大きな特徴の一つです。1998年に冬季オリンピックが長野市で開催されたように、冬はウィンタースポーツの中心地としても有名です。

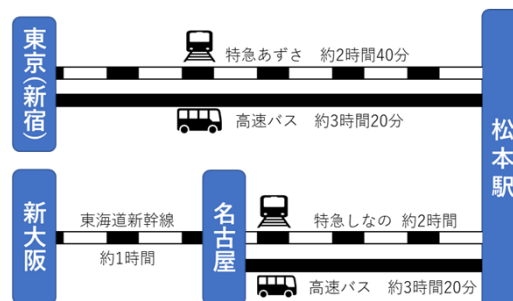


松本城



紅葉の北アルプス

日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）が学習する松本キャンパスは、日本の中心にあるため、東京・名古屋から電車で2時間30分、大阪からでも3時間30分と大都市への移動も簡単です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

信州大学では日本語教育を実施しており、レベル別指導やアカデミックな日本語の指導まで幅広く行っています。また、日本文化についても学習機会が多くあります。さらに、人文・経済・理学の専門科目の受講も、条件がそろえば可能です。



「武道・伝統文化実習」の授業

また日研生が自国の紹介を行うことにより、日本人学生の国際理解進展につながり、お互いに刺激あっています。それにより日研生の出身国に留学する日本人学生が増え、また日研生が卒業後に信州に戻るなどの好循環が見られます。これからの日研生にも同様の活躍を期待しています。



授業で着物体験

③ 受入定員 多文化共生と国際交流の祭り
6名（大使館推薦 3名、大学推薦 3名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本人と一緒に授業が受けられる人
- ・辞書を引きながら日本語の資料が読める人
- ・自分の専門分野について日本語で説明できる人
- ・日本人と積極的に関わる意志がある人
- ・日本人に自国の文化を紹介する意志がある人

⑤ 達成目標

CEFRの「C1」程度を目標としますが、自分の専門分野について、日本人に日本語で効果的なスピーチができれば達成とみなします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年9月下旬 ～ 2027年8月下旬
(2026年10月1日 ～ 2027年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月



日本人学生に母国・母校を紹介

⑧ 研修・年間スケジュール（変更になることがあります）

9月下旬 渡日
9月下旬 日研生ガイダンス・授業開始
10月 浅間温泉たいまつ祭り（日本三大奇祭）
12月 多国籍料理パーティー
1月下旬 1学期目のテスト・レポート
4月 日本人交流グループとお花見
6月 多文化共生と国際交流の祭り
（一般の日本人と共に祭りを創る）
7月下旬 2学期目のテスト・レポート
8月 発表会
8月 松本ほんぼん（松本最大の祭り）
8月下旬 修了式・帰国



⑨ コースの修了要件

以下の条件を満たせば修了となります。
1) 必修科目を含む12科目14単位以上を修得する。
2) 国際共修・国際理解に関する講座に参加する。
3) 期間中の学びを発表会で発表する。

修了要件をクリアした者に、修了証書を授与します。帰国後になりますが、信州大学の発行する成績証明書を、単位認定後に郵送します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の概要

⑦ 日本語と日本社会の学習

これまで学んできた日本語力をさらにブラッシュアップするための日本語の科目が用意されています。大学レベルの授業についていけるための読解・聴解・作文等を学びます。また、長野県・松本地域の歴史・文化等を学ぶ科目、日本人の仕事観・就職活動の進め方について学ぶ科目等もあります。さらに長野県内の企業を回るイベント等もあります。



④ 広範囲の科目と専門科目

日研生は、学部1年生が受ける非常に広範囲で大量の科目から自由に選んで受けることができます。その中には、留学生と日本人学生が深く連携して学ぶ「国際共修」の科目も多くあり、日本人の友達を作りやすいです。

また、人文・経法学部の専門の科目も受けられることが多いです。先生の許可が出れば、より専門的で深い内容の勉強を進めることも可能です。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

⑦ 日本語作文

④ 一般学生向けに開講する教養科目、専門科目
2学期目に留学生に特化していない授業を3科目（6単位）以上受講することを必須とします。
日本語レベルが低いと判断した場合、必須科目を一部変更する場合があります。

II) 選択科目

以下の授業を受講することを推奨しています。

- ・「国際理解と多文化共生を考える」
日本人との共修による多文化共生等の学習
- ・「ビジネス日本語」
就職活動やビジネス日本語の指導を通じて、日本の様々な側面の紹介および議論
- ・「武道伝統文化実習」
茶道、着物、剣道、合気道などの体験学習

3) 地域の見学や地域交流等の参加ができる科目及びその具体的な内容

大学近くにある教育学部附属幼稚園・小学校・中学校の授業に深く参画します。児童・生徒と定期的に会って交流しつつ日本の初等教育について学び、皆さんの国の教育を児童・生徒に伝えます。



附属中学校での国際共修

4) 日本人学生との共修科目及び具体的な内容

「国際理解と多文化共生を考える」

この授業は日本人学生と留学生がほぼ半数の50-70名で受講するもので、日本人・留学生同数の小グループ(4, 5名)を形成します。授業は、講師が日本や世界の多文化共生に関する情報や直近の世界的話題を提示し、問題提起した後にディスカッションをする形で進みます。毎週の課題と小テスト、グループ全体でのスライド作成、期末レポート等の課題を通じて学習を深めます。



安曇野での日本人との交流会

グローバル化推進センターが開講する授業については、ホームページで詳しく調べることができます。

⑪ 指導体制

・指導教員

日研生はグローバル化推進センターの所属となり、専任教員が学業面・生活面について個別指導を行っています。

専任教員： 佐藤友則

・協力教員等

人文学部等、専門分野の協力教員と連携して多岐にわたる専門の学習をサポートしています。

・チューター

日本人学生がチューターとして、皆さんをサポートします。来日時の煩雑な手続きや学習面、生活面の相談相手、観光スポットの紹介など頼れる相談相手です。



ガイダンスに出席する新入留学生とチューター



■宿 舎

① 宿舎状況

キャンパスまで歩いて10分以内のアパートを紹介しています。エアコンが設置され、インターネット環境も整っています。

② 宿舎費

40,000円/月 程度（インターネット無料、光熱費は別）
入居時初期費用：約40,000 ～ 60,000円/年（共益費ほか）
＊費用は変更の可能性があります。

③ 設備

家具・家電製品・ガスコンロがついています。身の回りのものだけ持ってくれば生活ができます。自炊可能です。



■修了生へのフォローアップ

信州大学の日研生プログラム修了生とは、信州大学国際交流同窓会を通じて連絡を取り合っています。同窓会の本部は松本、支部は、韓国、中国（北京&上海&石家荘）、タイ、モンゴル、ベトナム、マレーシアにあり、将来的には欧州、米国、インドネシアなどにも展開が予想されています。

修了生の中には大学教員になっている人もおり、その修了生の勤務する大学と信州大学の大学間交流協定締結が実現したり、その大学から新たな日研生が来学するなどの成果があげられています。また、卒業後に長野県の企業に就職し、母国と長野県の懸け橋になっている者や、休暇で松本を訪問し、自分が勤める会社について日本人学生にプレゼンをする者もいます。



国際交流同窓会・松本の様子



キャンパスで談笑する学生たち



キャンパスを歩く留学生と日本人学生

■問い合わせ先

<担当部署>

国際部国際企画課

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL +81-263-37-3365

FAX +81-263-37-3404

E-mail: gecschlr@shinshu-u.ac.jp

<担当教員>

グローバル化推進センター 佐藤友則

E-mail: stomo@shinshu-u.ac.jp

<ウェブサイト>

グローバル化推進センターホームページ：

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/>

信州大学ホームページ：

<https://www.shinshu-u.ac.jp/>



新潟大学 (新潟県)

日本語力を磨いて、リアルな日本を体感しよう！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

新潟大学は1949年に設立され、10学部、3大学院研究科、医歯学総合病院を有し、約12,000人の学生と約2,600人の教職員を擁しています。日本海に面している県にある大学としては、最大規模の大学です。新潟市にふたつのキャンパスがあります。市の中心部に位置する旭町キャンパスには、医学部、歯学部および附属新潟小学校、中学校、特別支援学校があり、市の西部にある五十嵐キャンパスには、8学部があります。

② 国際交流の実績

大学間交流協定：30カ国・地域 104件
学部間交流協定：38カ国・地域 259件



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数459人、日研生4人
2024年：留学生数517人、日研生4人
2023年：留学生数522人、日研生5人

④ 地域の特色

新潟県は質の良いお米と日本酒の産地であり、また、豪雪地帯として有名です。新潟大学の所在地である新潟市は、あまり雪は降りませんし、東京と比べて物価が安く生活費が多くかかりません。ですから日本語と日本の（地域）文化を学びたい学生にとっては、ちょうど良いところです。夏は大学の近くにある海で海水浴、また、冬はスキーやスノーボードといった雪国らしい楽しみ方もできます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

留学生だけの日本語のクラスで日本語を学ぶのではなく、日本人との共修科目（例：アクティブラーニングA/B/C）の中で、実際に使用しながら日本語を学ぶ機会を設定しています。共修科目では、広く日本の文化について、日本人とできるだけ意見交換をしながら、中から見る日本と、外から見る日本を比較することで、より深く日本を理解してもらうことを狙いとしています。もちろん留学生向けの日本語のクラスの中でも学ぶことが可能です。

ここでいう日本の文化とは、歴史や宗教などに限らず、アニメや若者文化といった、現代日本文化についても含まれます。さらに新潟という地域の特徴的な文化も学ぶことができます。新潟は日本でも有数の米どころ、酒どころです。また世界でも有数の豪雪地帯でもあるので、独自の雪文化などを学ぶこともできます。

また、実地見学旅行、ホームステイなどに参加する機会も設けています。これらに積極的に参加することによって、本物の日本を肌で感じてもらいたいと思っています。

③ 受入定員

10名（大使館推薦8名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このプログラムに参加を希望する学生は、新潟に来る前に日本語能力検定試験N2に合格しているか、あるいは講義内容を理解するのに必要な日本語能力を有していなければなりません。また学業に専念してもらうために家族と一緒に来日することはできません。

⑤ 達成目標

日本語で調べた日本について、日本語でプレゼンテーションできる力をつけることを目標とします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年9月下旬～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール（例）

9月下旬 渡日
10月 始業式 / 新大祭
11月 民謡コンサート / ホームビジット体験
12月 能鑑賞
1月 新年会
2月 能体験ワークショップ
4月 黎明祭（新入生歓迎会）
6月 ホームステイ
7月 盆踊り大会 / 歌舞伎鑑賞
8月 学習成果発表会 / 地域の祭り / 終業式
8月下旬 帰国



⑨ コースの修了要件

プログラムを修了すると、修了証書及び成績証明書を発行します。
修了要件は、必須科目4単位（2単位/期）を含む年間20単位以上（最低10単位/期）の履修です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

各自の興味にしたがって日本のあらゆる文化について、日本語クラスと日本人との共修クラスを中心に学んでいきます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

秋期には課題研究Ⅰが、春期には課題研究Ⅱが必須科目となります。

◆ 課題研究Ⅰ・課題研究Ⅱ

課題研究のため、演習形式で行われます。担当教員からレポート作成や発表会に向けて指導を受けます。

Ⅱ) 選択科目

一般学生が受講する科目には、日本語・日本文化研修留学生も同じように受講できる科目が多くあります。授業を通じて日本人学生との交流を図ることができます。地域に根ざした文化を学べる授業もありますので、新潟をよりよく知ることができます。

● 必須科目（予定）

	科目名	単位	時間数
①	課題研究Ⅰ／Ⅱ	各2	32

● 選択科目（日本語科目）（予定・一部抜粋）

	科目名	単位	時間数
②	日本語読解Ⅰ～Ⅵ	各1	16
③	英語による日本語文法解説	1	8
④	中国語による日本語文法解説	1	8
⑤	JLPT-N1	1	16

● その他の選択科目（予定・一部抜粋）

	科目名	単位	時間数
⑥	日本事情科目	2	15
⑦	多文化間共修A/B/C/D	各1	各8
⑧	ビジネス日本語	2	16
⑨	地域から文化を考える	2	15
⑩	日本と外国人A/B/C/D	1	8
⑪	アクティブラーニングA/B/C	各1	各8
⑫	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA/B	各2	各16
⑬	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解A/B	各2	各16
⑭	国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1	8

◆ 各種日本語科目

日本語能力検定試験のN1対策授業、日本語読解と英語または中国語による日本語文法解説のクラスが受講できます。ほかには少しレベルの高い、社会人としての日本語力やコミュニケーション能力、異文化理解力などを身に付ける科目があり、これは将来国際的な仕事をし、日本／日本人と関わることが希望する人向けに設定された授業科目です。また将来、日本の大学院などに進学するため、日本語と自分の母国語、日本の文化と自分の文化を比較・研究する科目も受講できます。

● 履修モデル（N2レベル）

	月	火	水	木	金
1限			⑪B		
2限			⑥	⑦B	⑩
3限	⑬	②(VI)		②(V)	
4限		①			
5限					

N2レベルの学生が、週に8コマ、11単位を修得する履修モデルです。履修科目名は、科目一覧表に書かれている数字と照らし合わせてご確認ください。他にもレベル別に履修モデルを組んでいます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

授業科目ではありませんが、年間の行事の中で、施設見学や地域住民と交流する機会がたくさんあります。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本人学生とともに学べる科目がたくさんあります。また日本人学生をチューターとして配置しています。また「外国語学習支援スペース」などでは、日本人学生の外国語学習のチューターとして活躍しています。

⑪ 指導体制

本プログラムでは担当指導教員と、場合によりチューターによる個人指導を受けます。個人指導の内容は主に、レポート作成に向けての学業指導です。必要に応じて生活指導も行います。



学習成果発表会

■宿 舎

新潟大学国際交流会館

設備：バス、トイレユニット、キッチンユニット、給湯設備、冷暖房用空調設備

備品：ベッド、机、椅子、書棚、洋服タンス、食器棚（テーブル付）、食卓イス、ガスコンロ、冷蔵庫、電子レンジ、消火器

寄宿料：月額22,000円（単身室）

外国人研究者および留学生のための宿舎としてキャンパス内に国際交流会館があります。

また、大学近くのアパートを「生協委託宿舎」として、留学生に提供しています。（月額25,000～45,000円）



■修了生へのフォローアップ

日研生担当教員が修了生とメールなどで常に連絡を取り合っています。

また、入試説明会などで当該国に行く場合には修了生に協力してもらっています。日本の大学院への進学を希望する修了生に対して相談に応じています。



■問合せ先

<担当部署>

新潟大学国際交流センター / 国際交流推進課

住所：〒950-2181

新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地

TEL： +81-25-262-6189（直通）

FAX： +81-25-262-7519

Email： intl-scholarship@adm.niigata-u.ac.jp

<ウェブサイト>

国際交流・留学情報ホームページ：

<https://www.niigata-u.ac.jp/international/>

新潟大学：

<https://www.niigata-u.ac.jp/>



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学 (茨城県)

自然・文化・国際性豊かな「サイエンスシティ」つくばで学ぶ日本語・日本文化

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

筑波大学は、国内的にも国際的にも「開かれた大学」として、旧来の固定観念に捉われない柔軟な教育研究組織と時代の要請に応える新しい大学の仕組みを創出することを基本理念として、1973年10月に開学した。社会経済環境が大きく変化するなか、筑波大学は未来を構想するフロントランナーと自らを位置付け、地球規模の課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材を輩出する、世界的な教育研究の拠点となることを目指している。

学士課程：

人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群、グローバル教育院、総合学域群

学士課程基幹教員数：教授、准教授、講師、助教
計 1,575 名

学生数：学群生 9,573名、 大学院生 7,111名
計 16,684名

(2025年5月現在)



② 国際交流の実績

在籍留学生数：2,341名/114か国（2025年5月現在）
協定締結：68か国・地域の大学や研究機関と
382協定（2025年10月現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数	2,341名
日本語・日本文化研修留学生	5名
2024年：留学生数	2,411名
日本語・日本文化研修留学生	4名
2023年：留学生数	2,399名
日本語・日本文化研修留学生	6名

④ 地域の特徴

つくば市は東京の北東60km、北に筑波山を仰ぎ、東に霞ヶ浦をのぞむ自然環境の豊かな地域に位置している。筑波研究学園都市（サイエンスシティ）として国内外に知られており、市内には、国の研究機関・大学を中心とし、民間の研究・教育機関等が多い。そのため、外国からの研究者・留学生が多く住んでおり、国際色豊かな街を形成している。つくばと東京都心はつくばエクスプレス（TX）により最短45分で行き来することができる。



自然豊かなキャンパスが魅力

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

- i) 日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）向けの授業科目を設けている。その他の科目でも、日研生の興味に応じた授業を履修することができる。
- ii) 日本語と日本文化について、教室内外での実習による学習を重視している。
- iii) 修了レポートの執筆を課している。
- iv) 様々な研究内容に対応可能な指導体制で、親身できめ細かい指導を行う。一人一人に学術チューターがつく。

③ 受入定員

8名（大使館推薦：6名 大学推薦：2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日研生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者とする。

i) 資格

来日時時点で、外国（日本以外）の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍する者、またはそうした学部・学科に所属していない場合であっても、日本語・日本文化に強い関心を持つ者。ただし、1年生は対象外とする。

ii) 日本語能力

日本語による授業を理解し、日本語の参考文献を読み、日本語でレポートを書き、口頭発表を日本語で行う能力のある者。日本語能力試験N2程度以上が必要となる。

⑤ 達成目標

日本の言語と文化について幅広く学び、日本についての理解を深める。これらの学習を通じて日本語の運用能力を高める。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年9月下旬 ～ 2027年9月下旬
(2026年10月1日 ～ 2027年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年9月

⑧ 年間行事・年間スケジュール（予定）

9月下旬：渡日

9月末：オリエンテーション

11月：留学生パーティー

11月下旬：学外研修

12月：修了レポート構想発表会

5月：修了レポート中間発表会

5月：日本語・日本文化学類生との交流会

7月：修了レポート発表会

9月初旬：修了式

9月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

合計20単位以上修得し、日本語・日本文化分野に関する修了レポートを提出した者には「修了証書」を授与する。

※なお、研修終了日より以前に早期帰国を希望する場合には、事前相談に基づき事情を判断し、所定の手続を踏むことを条件に、認める場合がある。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

i) 研修・コース科目の特徴

日研究生は主に日本語・日本文化分野に関する授業に興味に応じて履修することができる。また、日本語能力を向上させるため、本学が開講する日本語コースを履修することもできる。修了レポート執筆に係る科目群において、日本語によるアカデミックライティング指導を重視した科目づくりになっている。

＜表1＞ 研修科目及び単位数

	研修科目名	計
(I)	日本語・日本文化実験実習	1
	日本語・日本文化基礎研究	1
	日本語・日本文化特別研究	2
	日本語・日本文化修了レポート	2
(II)	現代日本語概論Ⅰ	1
	言語学概論	1
	日本語教育概論	1
	日本の文学概論	1
	日本語の語用論	1
	言語と文化Ⅰ	1
	世界文学と日本文学	1
	* 多文化の中の日本	1
	近代日本の文化交流	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅳ	1
	言語教育対話実習Ⅰ	1
	言語教育対話実習Ⅱ	1
	現代日本社会概論	1
	共生のための社会言語学	1
(Ⅲ)	総合日本語コース(中級～上級)	**
(Ⅳ)	選択科目	**

* 年度によって開設科目の変更がある。

** 選択した科目によって単位数が異なる。

ii) 研修・コース開設科目

必修科目（60コマ、90時間）

＜表1＞の（Ⅰ）の科目。本コースのために特別に開設されている。

・「日本語・日本文化実験実習」：学外研修

・「日本語・日本文化基礎研究」：
修了レポート作成のための基礎指導

・「日本語・日本文化特別研究」：
修了レポート作成指導

・「日本語・日本文化修了レポート」：
修了レポート作成・発表

選択必修科目（40コマ、60時間）

＜表1＞の（Ⅱ）の科目群から最低4科目（4単位）を選択して履修する。

・「現代日本語概論Ⅰ」：

現代日本語の音声・音韻、語彙、文法、談話・文章

・「言語学概論」：言語の種類、言語の構造と意味

・「日本語教育概論」：日本語教育のコースデザイン

・「日本の文学概論」：海外に翻訳された日本文学

・「日本語の語用論」：
語用論の観点からの言語現象の分析

・「言語と文化Ⅰ」：文化的な影響が見られる言語表現

・「世界文学と日本文学」：文学作品に描かれた動物

・「多文化の中の日本」：
多文化状況の中の日本について検討

・「近代日本の文化交流」：
近代日本における人々の移動・交流・変化する意識

・「日本語・日本文化共同研究Ⅳ」：
日本文化に関する日本人学生と留学生との共同研究

・「言語教育対話実習（Ⅰ・Ⅱ）」：
外国語模擬授業のチームティーチング

・「現代日本社会概論」：
現代日本社会が直面する課題についての講義

・「共生のための社会言語学」：
多文化社会において生じる「ことば」に関する課題

総合日本語コース（中級～上級）

プレースメントテストの結果に基づいて、各自に合ったレベルを受講する科目である。技能別の上級レベル日本語の授業も含み、本学のグローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）が開設する日本語コースである。ただし、日研生コースの修了要件として認められる単位数は、6単位を上限とする。

選択科目

日本語・日本文化学類や他学類の開設する科目の中から日研生の興味に応じて自由選択できる。

iii) 見学・地域交流等の参加型科目

必修科目の「日本語・日本文化実験実習」は、学外研修であり、日本人のチューターと共に日本文化や日本人の生活について学ぶ。

iv) 日本人学生との共修等の機会

＜表1＞の(Ⅱ)と(Ⅳ)の科目は、日本人学生が履修する正規科目で、これらの科目を履修することによって日本人学生との共修・協働の機会が得られる。



日本語・日本文化実験実習（成田山新勝寺）

⑪ 指導体制

i) 担任教員が指導を行う。

担任教員 田中 祐輔 教授

ii) 日研生一人につきチューター一名が配置され、主に生活面を手助けする。

iii) 修了レポートを執筆する時期には、各日研生について、担任教員とは別に、専門に応じた指導教員と学術チューター（大学院生）が指導を行う。

■ 宿舎

全員が筑波大学の単身用宿舎に入ることができる。入居時に、2か月分（入居月の日割り分および翌月分）の宿舎費（月々3～4万円程度）および保証金（3万円）の支払いが必要である。また、希望すれば、大学周辺の民間アパートを借りることもできる。

■ 修了生へのフォローアップ

修了生のためのメーリングリストや、日本語・日本文化学類のウェブページ、SNSを利用し、情報発信や交流を図っている。



日本語・日本文化研修留学生修了式

■ 問合せ先

＜担当部署＞

◆コース内容について

筑波大学日本語・日本文化学類

住所：〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL： +81-(0)29-853-6764（直通）

FAX： +81-(0)29-853-6839

E-mail：nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp

◆事務連絡について

筑波大学学生部学生交流課

住所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL： +81-(0)29-853-6090（直通）

FAX： +81-(0)29-853-7412

E-mail：isc-short-term@un.tsukuba.ac.jp

＜ウェブサイト＞

筑波大学：

<https://www.tsukuba.ac.jp/>

筑波大学日本語・日本文化学類：

<https://www.japanese.tsukuba.ac.jp/jss/>



日本人チューターとキャンパス内をサイクリング

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語・日本文化研修留学生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者とします。

- 資格：来日時点で外国（日本以外）の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍する者。ただし、1年生は対象外。
- 日本語能力：日本語能力試験N2又はJ. TEST実用日本語検定C級に相当する日本語力を有する者。
- 日本語による授業を理解し、日本語の参考文献を読み、日本語でレポートを書き、口頭発表を行う能力のある者。

⑤ 達成目標

受入教員と日本語教員の指導のもとで研究を進め、一年間の研究成果を発表し、修了レポートを作成・提出します。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年10月上旬～ 2027年9月下旬
（在籍期間：2026年10月1日 ～ 2027年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

※2025年度実績のため、実施内容が変更になる場合があります。

- 9月：渡日（下旬）
10月：10月入学留学生オリエンテーション
越秋祭（大学祭）
11月：学長と10月入学留学生との懇談会
交通安全教室
日本文化・歴史体験及び地域交流に関する研修ツアー
12月：留学生が語る／留学生と語る会
1月：留学生との意見交換会
2月：3月修了外国人留学生成果発表会
留学生スキーのつどい
3月：国際交流のつどい
4月：4月入学留学生オリエンテーション
5月：学長と入学留学生との懇談会
6月：上越地域の歴史・文化等に触れる町歩き
7月：世界を語ろう
夏の交通安全祈願式
8月：短期外国人留学生成果発表会
9月：短期外国人留学生修了証書授与式
帰国（中旬）

⑨ コースの修了要件

以下の修了要件を満たした者には、修了証書を授与します。

- 学部開講科目の中から半期12科目（日本語補講3科目含む）以上受講し、単位を取得する。
- 受入教員と日本語教員の指導のもとで進めた一年間の研究成果を発表し、修了レポートを提出する。
また、成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

必修科目・選択科目ともに、前期・後期各期15週開講します。授業はすべて日本語で行います。

入学後、以下の科目以外に希望する科目があれば、追加して受講することができます。受講科目については、受入教員と相談のうえ、決定します。

2) 研修・コース開設科目

※2025年度科目のため、科目名等が変更になる場合があります。

I) 必須科目・内容

学校教育学部開設科目：

- ・日本語・日本文化研究セミナーA/B
- ・国際交流セミナー

日本語補講科目：

- ・日本語文献講読A/B
- ・日本語レポート作成A/B
- ・日本語研究発表A/B

II) 選択科目・内容

学校教育学部開設科目：

- ・日本事情：
日本国憲法／法律学文献講読／経済学概説／現代社会と学校
- ・日本文化：
書の表現と文化／彫刻表現 I
- ・日本の文学：
国文学講読B／国文学演習B

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

学校参観

本学の附属小学校・中学校を始めとして学校参観を実施しています。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
・特別聴講学生として、一般学生とともに受講し、単位を取得することができます。
・日本語・日本文化研究セミナーA/Bでは、一般学生とともにゼミナールに所属し、学びます。



～ 上越地域の歴史・文化等に触れる町歩き ～



～ 留学生が語る／留学生と語る会 ～

⑪ 指導体制

- ・ 担当教員
受入教員が、留学生一人ひとりに、研究指導及び履修指導を行います。
- ・ 日本語指導
本学教員及び外部講師による日本語指導により、言語能力から生じる不安を取り除きます。
- ・ 担当事務
研究連携課国際交流・地域連携チームの職員が、日本での生活全般の相談に応じます。



～ 雪国スキー体験 ～

■ 宿 舎

※2025年度実績のため、宿舍費等が変更になる場合があります。

キャンパス内の緑に囲まれた一画に、留学生及び外国人研究者のための国際学生宿舍があります。

留学生用は単身用居室15室、夫婦用居室3室を用意しています。

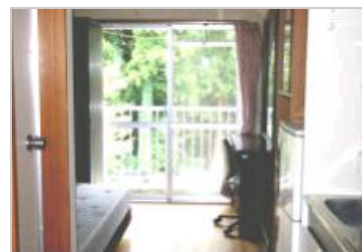
設備

単身室（宿舍費5,900円/月・共益費1,500円/月）
ミニキッチン、トイレ、給湯設備、冷暖房用空調設備、シングルベット、片袖机、回転椅子、書棚、洋服ダンス、吊り書棚、食器棚、冷蔵庫、電気スタンド

夫婦室（9,500円/月・共益費1,500円/月）
キッチン、ユニットバス、トイレ、給湯設備、冷暖房用空調設備、シングルベット2、片袖机、回転椅子、書棚、応接テーブル、応接イス、食卓、テーブル、食卓イス、食器棚、整理ダンス、玄関収納庫、洗濯機、乾燥機、冷蔵庫、電気スタンド、クローク



～ 国際学生宿舍 外観 ～



～ 国際学生宿舍 室内 ～

■ 修了生へのフォローアップ

修了生に対し、本学が毎月配信している「国際交流ひろば」や「留学生ネットワーク」をととして情報提供を配信しています。



～ 短期留学生修了証書授与式 ～

■ 問合せ先

<担当部署>

上越教育大学

研究連携課 国際交流・地域連携チーム

住所：〒943-8512

新潟県上越市山屋敷町1番地

TEL : +81-25-521-3299 (直通)

FAX : +81-25-521-3621

Email : ryugaku@juen.ac.jp

<ウェブサイト>

上越教育大学ホームページ

<https://www.juen.ac.jp/> (日本語)

<https://www.juen.ac.jp/contents-e/index.html>

(英語)

日研生コースガイド

<https://www.juen.ac.jp/050about/030internat/040recep>



お茶の水女子大学 (東京都)

小規模大学の特性を生かし、きめ細やかな学習指導や支援が充実

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

お茶の水女子大学は、1875年、国によって設立された日本最初の女性のための高等教育機関「東京女子師範学校」を前身としています。

すべての女性がその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に己の資質能力を開発し、知的欲求の促すままに自己自身の学びを進化させることを支援することを使命としています。

日本における女性教育の先達である本学は、国際的状況の中で、政治、経済、学術、文化をはじめ各界のオピニオンリーダーとなりうる女性を育成するプログラムを世界に示しています。

本学では、小規模大学の特性を生かし、教員一人あたりの学生数が14.85人と少ない環境で、きめ細かな学習指導や支援を受けることができます。

また、1対1で個人チューターに学修や日本での生活について相談できるほか、レポートや論文などの日本語添削サポートも提供しています。

2) 学生数等 (2025年5月1日現在)

学 部：文教育学部、理学部、生活科学部、共創工学部

大学院：人間文化創成科学研究科

教員数：247名

学生数：学部生 正規2,079名、非正規114名
(正規14名、非正規58名)

大学院生 正規822名、非正規57名
(正規137名、非正規15名)

(注) カッコ内は留学生数

② 国際交流の実績

27の国・地域から224名の学部生、大学院生、研究生等が在籍し、勉学に励んでいます。

大学間交流協定校数：33ヶ国97校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2025年：留学生数224人、日研生5人

2024年：留学生数220人、日研生7人

2023年：留学生数228人、日研生9人

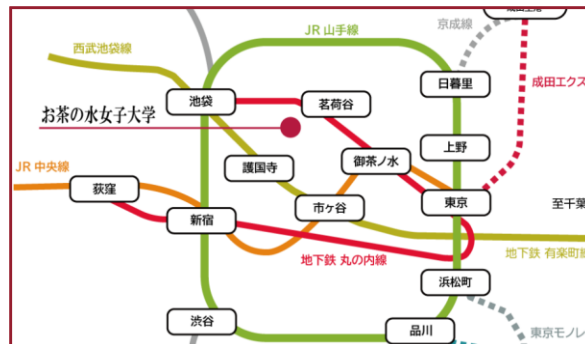
(注) 過去3年間、5月1日現在

日研生は当該年度10月受入数

④ 地域の特徴

文京区は、東京23区のほぼ中央に位置し、大学から池袋駅まで10分、東京駅まで20分で行けます。史跡や名所の多い歴史的な町であり、伝統的な大学や多くの学校のある町として知られています。

都内の主要駅へのアクセスが良い一方、みどり豊かで落ち着いた住環境は、都内でも屈指のものとされています。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語

能力の向上のための研修を行う。

② 研修・コースの特色

母国で基本的な日本語能力を習得した学生を対象とし、将来大学院で学ぶことも視野に入れて、アカデミックな日本語力の強化を行います。

日研生のみを対象としたオリエンテーション、週1回の特別クラス及び指導教員による定期的な面談など、きめ細かい指導が特色です。

③ 受入定員

12名 (大使館推薦6名、大学推薦6名)



④ 受講希望者の資格、条件等

成績優秀で、原則として日本語能力試験N2以上を保持している者。

⑤ 達成目標

1) 修了レポート完成

週1回の特別クラスで、1年かけて自身が興味を持つテーマについて学び、修了レポートを作成します。研究の立案から資料収集、分析方法や論文執筆という研究スキルを身につけることを目指します。アカデミックな日本語力と、研究に必要なリテラシー能力を伸ばします。自力で日本語の論文を理解し、専門的内容をアカデミックな文体で表現できるようになることが目標です。

2) 日本人学生と一緒の授業の履修

「日本語」「日本文化」いずれのコース希望も受け入れますが、専門的な「日本文化」については、日本人学生向けの科目で学ぶこととなります。（外国人留学生特別科目は、日本文化の基礎的な内容が中心です）留学生と日本人学生の両方を対象にした科目も開講されています。世界各国からの留学生や日本人学生と共に、日本語や日本文化、世界の諸問題について多様な視点から学びます。



⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月末頃～2027年8月31日
（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）
修了式は8月中旬を予定。※原則出席必須

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月末頃～10月初旬： 渡日
10月： 授業開始・日研生オリエンテーション

11月： 大学祭
12月： ～～冬休み～～
1月： 日研生修了レポート中間発表会
2月： 授業終了（試験・レポート）
～～春休み～～
4月： 授業開始
7月： 日研生修了レポート報告会
授業終了（試験・レポート）
8月： 日研生修了式
8月下旬～8月末： 帰国

※この他、学生が企画する日研生旅行や、日本人学生と留学生が互いの言語や文化を教え合う言語交換プロジェクトもあります。

⑨ コースの修了要件

1) 日研生クラスへの出席（2回の発表会を含む）

2) 前期・後期それぞれにおける科目履修

前期（10月～3月）、後期（4月～8月）それぞれに週4日以上通学し、16単位相当以上（うち2単位相当は必修科目）の授業を選択・履修することが求められます。

3) 修了レポートの提出

研修終了時に修了レポートを提出します。そのために指導教員による個別指導も行われます。
※成績証明書が発行可能です。
※早期修了は、原則としてできません。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

小規模大学の特性を生かした、きめ細やかな学習指導や支援を行っています。指導教員による個別指導の機会が豊富に設けられており、授業内外での学修を全面的にサポートする体制になっています。各自が選んだテーマに沿って1年かけて修了研究を行います。修了研究の成果は、報告書にまとめます。発表会も2回行われます。

2) 研修・コース開設科目

1) 必須科目（1コマ、90分/週・アカデミック ジャパニーズ）

・日研生指導

週に一度日研生を対象としたクラスがあり、基本的なアカデミック・スタディ・スキルを学び、修了レポートの作成を目指します。

II) 選択科目（最低7コマ、10時間30分/週・内容は以下の通り）

・外国人留学生特別科目

日本語 I A/B～V A/B：（各学期5科目）

1科目（2単位）当たり22時間30分

総合的な日本語力を養います。少人数クラスが多く、発表やディスカッションの機会が豊富で、日本語の高い理解力と発信力が身につきます。

日本事情 I A/B ～V A/B（各学期5科目）

1科目（2単位）当たり22時間30分

日本の歴史・社会・文化について学びます。教室での学びだけでなく、東京の街に出て取り組む課題もあり、体験的に文化を理解できます。

上記とは別に、専門科目や特設日本語科目（会話、文法、読解、論文作法、漢字、日本語能力試験対策など）の授業も履修できます。少人数クラスであるため、発表の機会も多く、経験豊富な教師から丁寧なフィードバックを受けることができます。各自の学習段階に合わせて、確実にレベルアップする指導が受けられます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

留学生向けの企画として、留学生と日本人学生との交流会、歌舞伎鑑賞教室、茶道教室、生け花教室、着付け教室等が実施されます。学内の附属小学校で児童生徒と交流する機会もあります。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・日本人学生対象の一般科目

大学が提供する全科目の中から、各自の興味関心に合わせて授業を選択できます。一般科目を多く選択する留学生もいます。各自の希望に合わせた、自由な授業選択が可能です。

⑪ 指導体制

・指導教員

西坂祥平 准教授（専門分野：日本語教育学）

・留学生日本語学習支援・交流室

国際教育センターで学習支援を受けることができます。大学院生の先輩が日本語チェックや学習アドバイスをを行います。生活相談もできます。また、留学生のための交流企画も行っています。

・個人チューター

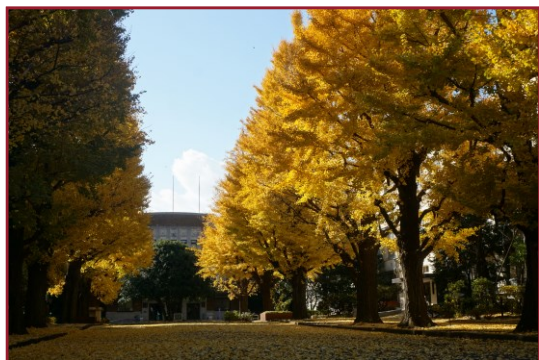
日研究生一人一人に個人チューターが付きます。お茶の水女子大学の学生が、来日時の手続き、日ごろの勉強や生活に関する相談など、日本での生活を安心して送るためのサポートをします。良い友人になり、学内外で一緒に時間を過ごすペアも少なくありません。



カフェテリア



図書館



本館前の銀杏並木

■宿 舎

名 称：音羽館(学生宿舎)
 所 在 地：お茶の水女子大学キャンパス内
 竣 工：2022年2月
 食 堂：なし(学内の食堂は平日昼夜営業)
 対象学生：学部学生や留学生の単身者など
 入居一時金：31,680円
 毎月の寮費：65,300円
 (内訳：賃料48,800円、共益費6,000円、保険料500円、インターネット使用料1,100円、水道費1,500円・電気代5,000円、ガス代2,400円)
 設 備：
 ・居室…14.5 m² (個室のみ)
 洗面化粧台、ユニットシャワー、トイレ、ミニキッチン、冷蔵庫、エアコン、ベッド、机、衣類収納棚完備)
 ・共用部分…ラウンジ、宅配ボックス、ランドリー、談話室(学習室、各階に1室)、たたみの間、キッチンスタジオ、シアタールーム、ミーティングルーム、フィットネススタジオ

※入居一時金及び初月分の寮費について、クレジットカード払いによる前払いあり

※食事については、学内の食堂を利用する学生や、他の寮生と一緒に自炊を楽しむ学生もいます。



「安心・安全・快適」な音羽館の外観



←個室の間取り & パノラマ画像
 360° ビュー
 (室内が見られます。)

■修了生へのフォローアップ

本学での日研究生プログラム修了後、本学大学院(日本語教育、ジェンダー研究等)で学ぶために再来日する学生がほぼ毎年います。本学でさらに専門的な勉強をしようと、再来日を目指す修了生には帰国後も相談に乗るなど、積極的に支援しています。



■問合せ先

<担当部署>

お茶の水女子大学国際課留学生担当

住所：〒112-8610

東京都文京区大塚2-1-1

TEL：+81-3-5978-5143 (直通)

FAX：+81-3-5978-5951

Email：ryunai@cc.ocha.ac.jp

<ウェブサイト>

お茶の水女子大学国際教育センター：

www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/

お茶の水女子大学留学生関連情報：

<https://www.ocha.ac.jp/intl/studyjp/index.html>



東京外国語大学 (東京都)

多言語・多文化キャンパスにおける充実した日本語教育

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史：東京外国語大学は、世界諸地域の言語・文化・社会及び国際関係を専門とする大学として、日本の多くの大学の中で独自の地位を確立している。

国際日本学部、言語文化学部、国際社会学部、大学院総合国際学研究科（博士前期・後期課程）、留学生日本語教育センター、アジア・アフリカ言語文化研究所において、世界のほぼすべての地域にわたる言語学、言語教育学、文学、歴史学、哲学・思想、文化人類学、社会学、政治学、経済学と幅広い分野の教育・研究が行われている。特に2019年4月開設の国際日本学部では、国際的な視野から日本を総合的に学ぶことができる。

本学の直接の前身である東京外国語学校（明治32年(1899)創立）もまた、海外に活躍する多くの人材を養成し、異文化の受容と外国語教育の向上・普及に大きく貢献してきた。その源は安政年間の「蕃書調所」まで遡ることができる。

戦後「東京外国語大学」として新たに発足して以来、本学は「世界の言語とそれを基底とする文化一般につき、理論と実際にわたり研究教授し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通して世界の諸地域に関する理解を深めることを目的とする。」の理念のもとに、国際社会の第一線で活躍する多数の有能な卒業生を社会に送り出している。

2) 教職員・学生数等（2025年5月1日現在）

学生数	国際日本学部	372名
	言語文化学部	1,662名
	国際社会学部	1,725名
	大学院博士前期課程	283名
	大学院博士後期課程	211名
教職員数		393名

② 国際交流の実績

本学の学生を世界に送り出すとともに、世界諸地域からの留学生を積極的に受け入れている。

・ 交流協定締結状況（2025年5月1日現在）
73か国・地域／243機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

1980年に日本で最初に日研生を受け入れた実績を持つ。

2025年：留学生数 663人、日本語・日本文化研修留学生 22人

2024年：留学生数 690人、日本語・日本文化研修留学生 22人

2023年：留学生数 687人、日本語・日本文化研修留学生 23人

④ 地域の特徴

東京西部の緑豊かな環境。新宿・渋谷へも電車で40分程度。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

「多言語・多文化環境における学び」および「日本語」を特色とする。科目履修については、アカデミックな日本語の能力を伸ばすための日本語科目及び、各自の専門・研究テーマに合わせた学部科目の履修が可能で、各学生の日本語のレベルに合わせた履修システムとなっている。学部科目については、日本語・日本語教育などの言語関連科目、日本文化・社会・歴史関連の科目などが履修できる。

③ 受入定員

24名（大使館推薦17名、大学推薦7名）

④ 受講希望者の資格・条件等

日本での1年間の勉学・研修に支障のない日本語運用力を持つこと。留学開始前に日本語・日本文化にかかわる興味のあるテーマを決め、1年間の研修修了時に、研修の成果となる修了レポートを執筆する意欲を持つこと。大学推薦は、JLPT N2以上、大使館推薦はJLPT N3以上が望ましい。

⑤ 達成目標

入学時にプレイスされた日本語レベルより上のレベルに到達し、各自の興味・関心に合わせたテーマで修了レポートを執筆する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年9月28日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬	渡日・オリエンテーション 秋学期授業開始
12月上旬	国際交流のタベ
2月上旬	秋学期授業終了
2月上旬～3月下旬	冬学期
4月上旬	春学期授業開始
7月下旬	春学期授業終了および修了式
8月	帰国（2027年は8月中）

⑨ コースの修了要件

所定の単位を履修し、修了レポートを提出すること。日本語のレベルにより、必修の履修科目と単位数は異なるが、半期7コマの授業を履修すること。修了要件を満たしたのものには修了証書を授与する。単位取得可能。成績証明書に基づく単位互換については出身大学の判断による。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は秋学期・冬学期・春学期・夏学期の4タームの区分で開講され、主となる授業は秋学期、春学期である。学生の日本語レベルに応じて「全学日本語プログラム」（全7レベル）で日本語を履修するとともに「学部科目」を日本人学生やほかの留学生とともに履修する。各自の興味・関心に応じたテーマについての研究を行い、修了レポートを提出する。詳細は以下の通りである。

2) I 必須科目

- ・指導教員の下で研究を進め、修了レポートを執筆する。
- ・日本語：400～700レベルは総合日本語（日本語レベルにより過当たりの授業数が2～5と異なる）を中心に、必要に応じて技能別科目を履修する。
- ・学部科目：
国際日本学部・言語文化学部・国際社会学部で開講されている科目の中から、各自の興味・関心及び日本語力に応じて履修する。（基本的には、日本語600レベル以上の学生のみ）
- ・修了レポートの内容
学生は各自関心のある分野についての研究を行い、国際日本学部の教員が指導に当たる。国際日本学部は、次の4領域を専門分野とする30名以上の教員を擁しているため、学生の関心に基づいた研究について、きめ細かく指導することが可能である。
 - ①日本の政治、経済、社会、歴史
 - ②日本文学、日本文化
 - ③日本語学
 - ④日本語教育学

2) II 選択科目

本学では、日本を総合的に学ぶ教養日本力科目が用意されており、それらを履修することにより、日本についてより深く学ぶことができる。

【授業科目及び授業時間数】 日本語

授業科目				時間数		
				秋 学期	春 学期	計
全学日本語プログラム	日本語中級 (400レベル)	中級総合日本語		150	150	300
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			文章表現	30	30	60
			口頭表現	30	30	60
	日本語中上級 (500レベル)	中上級総合日本語		150	150	300
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			文章表現	30	30	60
			口頭表現	30	30	60
	日本語上級 1 (600レベル)	上級1総合日本語		90	90	180
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			時事	30	30	60
			文章表現	30	30	60
	口頭表現	30	30	60		
	日本語上級2 (700レベル)	上級2総合日本語		60	60	120
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			時事	30	30	60
			文章表現	30	30	60
			口頭表現	30	30	60
			ビジネス	30	30	60

3) 見学、地域交流等の体験

近隣小中学校との交流や留学生支援の会が行う日本文化体験教室など、地域交流や日本文化を体験し見聞を広める機会が用意されている。

4) 日本人学生との共修等の機会

国際日本学部の日本人学生は、留学生と共に学ぶことを通じて、日本を総合的に捉えることを目指している。学部の科目を履修することにより、このような日本人学生との共修が可能である。また、在校生をバディとしてマッチングするバディ制度により、本学正規生との交流も可能である。

⑪ 指導体制

国際日本学部の教員が責任をもって指導にあたる。

■宿 舎

本学敷地内に国際交流会館を設置しているが、室数が限られているため、必ずしも入居できるわけではない。入居できない場合は、学外のアパート等を紹介する。

・過去3年間の日研生の宿舎入居状況（各年度10月現在）

2025年度	本学国際交流会館	21名
	民間アパート等	1名
2024年度	本学国際交流会館	1名
	民間アパート等	21名
2023年度	民間アパート等	23名

■修了生へのフォローアップ

修了生データベース構築がなされ、毎年更新している。修了生は卒業後、就職・大学院進学が主である。大学院進学のために再来日する日研生も多い。



国際日本学部教員



着物の着付け、華道、茶道などの日本文化体験をしました



小学校訪問



7月修了交換留学生及び日本語・日本文化研修留学生の修了式

国際交流のタベ



■問合せ先

<担当部署>

東京外国語大学留学生課

住所 : 〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学留学生課

Tel : +81-42-330-5184(直通)

Fax : +81-42-330-5189

E-mail : ryugakuseika@tufs.ac.jp

<ウェブサイト>

東京外国語大学ウェブサイト :

<http://www.tufs.ac.jp>

国際日本学部ウェブサイト :

<http://www.tufs.ac.jp/education/js/>



東京学芸大学 (東京都)

留学生対象の授業のほか、教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの科目が受講でき、附属学校との交流授業、伝統芸能のワークショップなどを通して、日本の社会や文化を学ぶことができます。

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

東京学芸大学は、新宿から電車で30分ほどの距離にある東京都小金井市に位置し、緑豊かで静かな環境にあります。

1949年に4つの師範学校を統合して誕生し、全国のエデュケーション界に多くの人材を送り出してきました。

1988年、教員養成課程に加えて、新たに教養系を設置し、教育以外の分野でも社会に貢献する幅広い人材の育成に努めています。

1996年、教科教育学を中心とする教育研究者養成を目的とした大学院連合学校教育学研究科（博士課程）を設置しました。

1998年、留学生に対する予備教育を含めた日本語・日本理解教育、修学上・生活上の指導・助言、日本語・日本文化研修留学生や教員研修留学生の研修プログラム等の業務を行うため、留学生センターを設置しました。



キャンパスの風景

② 国際交流の実績

(2025年10月1日現在)

海外の大学との協定： 69校

留学生数： 209人

(うち、日本語・日本文化研修留学生 7人)

海外の協定校で学んでいる本学学生数： 40人

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数318人、日研生 7人

2024年：留学生数287人、日研生 9人

2023年：留学生数263人、日研生 9人

④ 地域の特徴

小金井市は1958年10月に、東京都で10番目の市として誕生しました。都心から25Kmという位置にあり、人口10万あまりの緑ゆたかで快適な生活のできる町です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特徴

(1) 日本事情・日本文化に関する研修
日本理解に関する科目として「日本理解」や一般学生との協働学習を行う「多文化共修科目」等を受講し、日本の文化・社会に対する理解を深めます。

(2) 日本語能力の向上のための研修
日本語レベルに応じて必要な科目を受講し、日本語能力を高めます。

(3) 専門研究
研修生の希望、個人研究テーマ、日本語能力等を考慮して指導教員が認めた専門科目（一般学生対象授業）を受講します。

(4) 文化交流
本学の学生や地域住民との交流を深め、地域の文化活動など交流の場に積極的に参加します。たとえば、附属小学校との交流、伝統芸能のワークショップなどを行っています。

(5) 個人研究
指導教員のもとで自分の研究テーマについて研究し、その成果を、研修修了時までにレポートにまとめます。

③ 受入定員

25名（大使館推薦15名、大学推薦10名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験（JLPT）N2保持が望ましいです。

⑤ 達成目標

日本語を使用して、専門分野の資料を読んだり、レポートを書いたり、発表をしたりすることができるようになることが達成目標です。また、日本の文化について広く理解することも目標としています。修了レポートを作成し報告会で発表します。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年10月初旬～2027年8月上旬

修了式は8月初旬を予定

（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）

早期帰国は認めません。

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬～10月上旬：渡日

10月： オリエンテーション
秋学期授業開始
図書館オリエンテーション

11月： 防災館見学
サントリービール工場見学
江戸東京たてもの園見学

12月： 文楽鑑賞教室
附属小学校における交流

1月： 附属小学校における交流
研究テーマの構想発表

2月： 大相撲見学
4月： 春学期授業開始

5月： 中間発表会

6月： 歌舞伎鑑賞教室

7月： レポート提出

8月： 研究発表会、修了式

8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

下記の所定の科目を履修し、研究レポートを締め切りまでに提出して、その成果を指導教員が認めた留学生については、本学学長名において修了証書を授与します。

- 1) 必修科目…日研生特別演習（秋）、日研生特別研究（春）の2科目
- 2) 選択必修科目…日本理解、多文化共修科目から3科目
- 3) 選択科目…日本語科目、学部開設科目
上記1)～3)から合わせて14科目以上履修
（每学期7科目以上の履修が必要です）

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

（1）研修・コース科目の特徴
附属学校との交流授業を積極的に行っています。また、留学生対象の授業の他、教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの科目が受講できます。伝統芸能のワークショップなど、多様な文化体験に参加できます。

（2）研修・コース開設科目

I) 必修科目

日研生特別演習（秋学期）……14週×100分

日研生特別研究（春学期）……14週×100分

特別演習は、レポート作成のための講義、テーマ・構想発表会、施設の見学や地域交流、日本文化体験の活動などを主に行います。

特別研究は、主に指導教員の下で、研究およびレポート作成の活動を行います。その他、日本文化体験活動、中間発表会、最終発表会を行います。

II) 選択科目

- 1) 日本理解に関する科目（選択必修）
…各科目 14週×100分

日本理解 A～H 8科目

A, B(教育), C, D(人文) E(宗教), F(社会)

G(自然), H(書道)

※ 留学生を対象にした日本語で行う科目。

多文化共修科目 A～F 6科目

※ 日本人一般学生と留学生の共修科目で日本語で行う科目。（詳細は⑩(4)）

- 2) 日本語科目（選択）…各科目 14週×100分
日本語（会話、講読、作文、文法、漢字など）
日本語特別演習（マンガで学ぶ日本語、ドラマで学ぶ日本語、ビジネス日本語、小説など）
- 3) 専門科目（選択）…各科目 14週×100分
学部開設科目（教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなど）



江戸東京たてもの園見学

(3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容
必修の特別演習、特別研究で以下のような活動を行います。(予定)

- ・地域見学…江戸東京たてもの園、防災館、サントリー武蔵野ビール工場の見学など
- ・地域交流…附属小学校、都立高校との交流、
- ・日本文化体験…相撲見学、歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室など

(4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

多文化共修科目 A～F (日本語)

A 「多文化社会の問題解決プロジェクト」

在日外国人問題、難民問題、セクシュアリマイノリティ、障がい者問題など広く多文化多様性の問題解決をめざすプロジェクト学習

B 「多言語社会とコミュニケーション」

日本の少数言語 (琉球諸語、アイヌ語、日本手話)、在日外国人 (コリアン、ブラジル、難民の言語)、留学生の言語、日本の方言などを学びあいます。

C 「世界の言語と文化」

世界の言語についてのプロジェクト学習

D 「世界の民族と文化」

世界の民族音楽を実際に体験しながら学びます。

E 「教育」

異文化コミュニケーション論を学び、プロジェクト学習を行う。

F 「社会」

日本の商業、サービス業について学び、プロジェクト学習を行う。

⑪ 指導体制

日研生は、国際交流/留学生センターの所属となります。国際交流/留学生センター所属の教員が指導教員として科目の履修や研究の指導をします。

岡 智之 (2025年度日研生担当教員)、

許 夏玲、小西 円、有澤 知乃、伊能 裕晃

■宿 舎

渡日時に入居できる宿舎は以下の単身室の宿舎となります。家族連れでの留学の場合は民間アパートを自分で探すことになります。

○宿舎名

東久留米国際学生宿舎：単身室16室

○宿舎費・設備・通学時間等

東久留米国際学生宿舎単身室：4,700円/月

通学時間：西武線約1時間

* 上記金額には光熱水費等は含まれません。

○宿舎の設備・備品

ベッド、机、椅子など



附属小学校での交流



日研生プログラム修了式

■修了生へのフォローアップ

フォローアップの実績

修了生が国費研究生としての留学などを希望する場合、日研生担当教員や元指導教員など留学生センター教員が相談に応じています。2023年度は1名、2024年度は1名の元日研生が国費留学生として本学に入学しています。

東京学芸大学修了留学生ネットワーク

<https://www.facebook.com/GisecTokyoGakugeiUniversity>

■問合せ先

<担当部署>

東京学芸大学学務部 国際課 留学生支援係

住所：〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1

TEL： +81-42-329-7763 (直通)

FAX： +81-42-329-7765

Email： ryuugaku@u-gakugei.ac.jp

<ウェブサイト>

東京学芸大学ホームページ：

<https://www.u-gakugei.ac.jp>

東京学芸大学日研生ホームページ：

<https://gisec-gakugei.jp/program/program01/>



一橋大学 (東京都)

日本語・日本文化はもちろん、社会科学の授業でも専門的に学べます

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

長い歴史と伝統を誇る（1875年創立）、日本で最も古い『人文社会科学の総合大学』です。伝統的な学問領域の研究だけでなく、新しい研究領域の開拓に取り組む教授陣を擁しています。また、自然環境に恵まれた美しいキャンパスを有しています。

学生数（2025年5月現在）

商学部	1,186名
経済学部	1,172名
法学部	731名
社会学部	1,064名
ソーシャル・データサイエンス学部	187名
学部生合計	4,340名

経営管理研究科※	492名
商学研究科※	2名
経済学研究科	229名
法学研究科	409名
社会学研究科	333名
言語社会研究科	184名
ソーシャル・データサイエンス研究科	56名
国際・公共政策教育部	112名
国際企業戦略研究科※	5名
大学院生合計	1,822名

※2018年4月より商学研究科と国際企業戦略研究科を統合し経営管理研究科を設置。2017年度以前に入学した学生は商学研究科または国際企業戦略研究科として在籍。

② 国際交流の実績

大学間交流協定数： 179（学術交流協定）
163（学生交流協定）
※2025年5月現在

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数 899人、日研生 8人
2024年：留学生数 917人、日研生 9人
2023年：留学生数 901人、日研生 10人

④ 地域の特徴

JR国立駅から南へ真っすぐ伸びる大学通りは幅が約44メートルもあり、まちのメインストリートです。現在、その道の両側のグリーンベルトには、桜といちょうが交互に植えられ、春には桜の花びらのカーテンがまちをピンク色に染めて、秋にはいちょうの葉が黄金色の輝きを放ちます。この景色は、新東京百景にも選ばれています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

1. 希望者は、学部の授業に加え、条件を満たせば正規課程向けの学部ゼミナールにも参加できます。

2. 日本または日系企業に就職するための準備として、キャリア支援室のサービスを受けられます。
3. 鎌倉フィールドワークツアー、茶道、着物などの日本文化体験授業を実施予定です。
4. 日本人学生とともに、クラブ活動等に参加することができます。
5. 単位認定
全学共通教育科目・学部教育科目・国際交流科目の場合、各科目の合格要件を満たせば単位が認定されます。
成績は以下のとおり評価されます。
A+, A, B, C（合格）又はF（不合格）

③ 受入定員

12名（大使館推薦11名、大学推薦1名）



一橋大学図書館

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語力上級レベルで、大学学部3,4年次に在籍する学生を対象とします（原則として、日本語能力試験N1レベル相当以上）。

社会科学の基礎知識を持つ留学生にとって、日本語・日本文化だけでなく、幅広い知識が修得できるプログラムです。修了レポートのテーマとして、各自の掘り下げたいテーマを抱いて参加してください。

⑤ 達成目標

15,000字程度の修了レポートを執筆し、その内容についてプレゼンテーションを行います。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月初旬～2027年8月中旬頃
（在籍期間：2026年9月12日～2027年8月31日予定）
※奨学金の支給は2026年10月開始ですのでご留意ください。

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月初旬：渡日（2025年は9月1日）・入寮・

オリエンテーション

9月中旬：秋冬学期授業開始

12月：秋冬学期授業終了

4月：春夏学期授業開始

7月末：春夏学期授業終了

7月：修了レポート発表会

8月：修了式・退寮・帰国

⑨ コースの修了要件

1) 必修科目「Lecture for MEXT Japanese Studies Students I・II」（合計4単位）を修得すること。

2) 春夏学期及び秋冬学期それぞれにおいて12単位以上を履修すること。また、各学期において1週間につき6コマ以上を履修すること。

3) 日研生修了レポートを作成すること。

成績証明書は、各学期の成績発表日以降に発行することが可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴
日本語力を高め、日本研究を進めるための手厚い指導が受けられます。

2) 研修・コース開設科目

●必修科目

Lecture for MEXT Japanese Studies Students I・II
（日研生ゼミナール、2コマ4単位）

日研生対象。体験授業のほか、日研レポート作成に向け、討論形式の授業を行います。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

Lecture for MEXT Japanese Studies Students I・II
（着物体験、鎌倉ツアー、アート探検&マンガ・ワークショップ等）

如水ゼミ（商業施設見学等）

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語、日本文化、日本史等を正規学部生と共に学べる科目

●全学共通教育科目
日本語研究入門、日本文化論 等

●学部教育科目
言語社会学A、日本史総論A 等

●国際交流科目
Japanese Management, Japanese Society etc.

ゼミナール選考の条件を満たせば、ゼミナールへの参加も可能です。

●学部ゼミナール（選択）
正規学部生とともに学ぶ学部ゼミナール

●如水ゼミ
一橋大学を卒業し、各分野で活躍するビジネスリーダーを講師とする授業

各科目のシラバスはオンラインで公開されています。<https://syllabus.cels.hit-u.ac.jp/>

5) その他の講義、選択科目等

日本語教育科目（選択、レベル別）

●一般日本語科目：速読、学術文章表現、学術口頭表現、近代文語文講読 等

●専門日本語科目：経済の日本語上級、法の日本語 等

●日本事情科目：外国人留学生のための日本事情A（文学）、B（日本の歴史）

⑪ 指導体制

国際教育交流センター日本語教育担当教員が責任をもって指導し、また、生活面は国際教育交流センター留学生相談部門教員が担当します。なお、学部ゼミナールに所属し専門科目教員の指導を受けることができる場合もあります。（受入責任者 国際教育交流センター長）

<https://international.hit-u.ac.jp/cgee/advising/>



修了式にて



クラブ活動：弓道部にて

■宿 舎

日本語・日本文化研修留学生は大学宿舎に優先的に入居できます。小平にある一橋大学国際学生宿舎では、日本人・留学生と一緒に生活しています。

国際学生宿舎一橋寮

〒187-0045

東京都小平市学園西町1-29-1（小平キャンパス内）



一橋大学国際学生宿舎



国際学生宿舎で行われたウェルカムパーティー

■修了生へのフォローアップ

日本語・日本文化研修留学生データベースに修了者の連絡先等を蓄積し、ネットワーク構築を図っています。また、コース修了後でも、成績証明書等の発行が可能です。



フィールドワーク
（鎌倉ツアー）

■問合せ先

<担当部署>

一橋大学学務部教務課（留学支援係（受入担当））

住所： 〒186-8601
東京都国立市中2-1

TEL： +81-42-580-8163（直通）
FAX： +81-42-580-8105
Email： edu-gs.g3@ad.hit-u.ac.jp

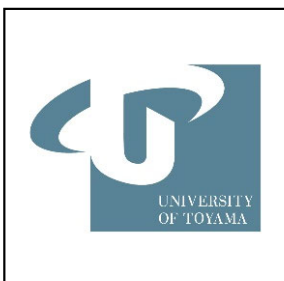
<ウェブサイト>

一橋大学国際教育交流センターホームページ

<https://international.hit-u.ac.jp/>

一橋大学ホームページ

<https://www.hit-u.ac.jp/index.html>



富山大学 (富山県)

一人ひとりにあったカリキュラム，日本人とともに学ぶ専門科目。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

本学は，2005年10月に富山大学（1949年設立），富山医科薬科大学（1975年設立）及び高岡短期大学（1983年設立）の3大学が統合した，幅広く豊かな教育・研究施設を有する国立の総合大学である。2026年5月現在，学生数9,341人（学部生及び大学院生）である。また，学術交流協定を35か国・地域（アメリカ合衆国，イギリス，エジプト・アラブ共和国，オーストラリア，タイ王国，大韓民国，中華人民共和国，マレーシア，ロシア連邦など）155機関と結び，積極的に留学生を迎え入れており，国際機構を中心に受入れ体制の整備も進んでいる。

学部：人文学部，教育学部，経済学部，理学部，工学部，都市デザイン学部，医学部，薬学部，芸術文化学部
大学院：人文社会芸術総合研究科，総合医薬学研究科，理工学研究科，持続可能社会創成学環，医薬理工学環，生命融合科学教育部，医学薬学教育部，理工学教育部，教職実践開発研究科

② 国際交流の実績

大学間交流協定校：21か国・地域51機関
(2025年5月現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数362人，日研生7人
2024年：留学生数321人，日研生6人
2023年：留学生数294人，日研生5人

④ 地域の特徴

富山県は，3000m級の北アルプス連峰を望み，日本海に面する自然に恵まれたところである。地理的には日本のほぼ中央に位置し，四季の移り変わりがはっきりしており，冬の雪景色も美しい。世界遺産「五箇山」の集落，全国的に有名な民謡「越中おわら節」など興味深い文化を育む場所でもある。

富山大学のある富山市は県庁所在地であり，人口約40万人をかかえる近代的な都市である。北陸新幹線により，東京へは約2時間で移動が可能である。また，市内には富山空港（東京まで約1時間）がある。水と空気と海産物がおいしく，文化的施設の整っている便利などとして，全国的に住みやすい街の最上位にあげられている。



富山大学
(五福キャンパス)

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
日本事情・日本文化に関する研修を主とし，補助的に日本語能力の向上のための研修を行う。
- b) 主に日本語能力の向上のための研修
日本語能力の向上のための研修を主とし，補助的な日本事情・日本文化に関する研修を行う。

② 研修・コースの特色

留学生を対象とした日本語・日本文化に関する授業科目と，人文学部，教育学部，経済学部で開講されている幅広い日本語・日本文化に関する専門科目の中から，各自の興味とレベルにあわせて授業科目を履修する。それと同時に，指導教員（人文学部又は教育学部）からの個人指導を随時受ける。個人指導の中で各々に研究課題を定め，修了レポートにまとめる。

③ 受入定員

8名（大使館推薦4名，大学推薦4名）
（人文学部，教育学部，経済学部いずれかの学部に所属する。）

④ 受講希望者の資格・条件等

このコースを受講希望する者は，以下の要件を満たす者とする。

（学歴）

渡日及び帰国時点で外国（日本国以外）の大学の学部在学中，日本語・日本文化に関する分野を専攻している者

（日本語能力）

国際交流基金及び日本国際教育支援協会による日本語能力試験N3以上の日本語能力を有する者
あるいは，これに相当すると認められる者

⑤ 達成目標

- 各自が立てたカリキュラムを履修し，研究計画を進め，日本語で修了レポートを完成させる。
①a)は必須，①b)は選択
- 国際交流基金及び日本国際教育支援協会による日本語能力試験N1相当の日本語能力を身につける。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日
（2025年は9月27日～30日）

10月～8月：見学旅行
（日本の文化や歴史を学ぶ機会）
日本人学生による支援交流活動
（個別学習支援・交流会・パーティーなど）

この他にも地域の協力を得て、地域の人々との交流の機会も提供されている。（国際交流フェスティバル、エクスカッション、小学校訪問など）

8月下旬：帰国（2025年は8月28日～31日）
9月：修了証交付

⑨ コースの修了要件

- 1) 所定の時間数（秋期・春期各240時間以上、合計480時間以上）を履修し合格しているか、修了レポートを提出しているか等を当該組織が判定の上、修了証を交付する。
- 2) 合格した科目について、総合日本語コースは履修証明書、教養教育科目及び専門科目は成績証明書を発行する。
- 3) 指導教員による個人指導の中で各々の留学生の研究課題を定め、その結果を日本語で修了レポートにまとめ提出させる。
ただし、①b)の学生は免除されることがある。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

各自の関心とレベルにより立てた個別カリキュラムをもとに履修し、研究計画を進め、日本語で修了レポートを完成させる。
授業で使用する言語は日本語である。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（コマ数、時間数）・内容

本大学の日研生プログラムは、各々のレベルに沿ったカリキュラムを履修することになっているので、必須科目は設けていない。

II) 選択科目（コマ数、時間数）・内容

[a] 日本語・日本文化に関する授業科目（2025年度現在）
最新の情報はホームページでご確認ください。

総合日本語コース（上級）			総合日本語コース（中級）		
科目名	授業時間数		科目名	授業時間数	
	秋	春		秋	春
読解C	60	30	文法・表現B	60	60
文法C	60	60	文法・読解Ba	60	60
作文C	30	－	文法・読解Bb	60	60
聴解C	30	30	作文B	－	30
会話C	30	30	聴解・会話B	30	30
漢字C	30	30	漢字B	30	30
表現技術C	－	30			
日本文化C	30	30			

* 総合日本語コースのウェブシラバス（授業案内）
<https://www.ier.u-toyama.ac.jp/program/timetable.html>

[b] 教養教育科目（外国人留学生用）

科目名	授業時間数	
	秋	春
日本語	30	60
日本事情	16	16
異文化理解	－	30

[c] 専門科目（正規学生用）

各学部で開講される幅広い専門科目より授業科目を選択する。以下に各学部の日本語・日本文化に関連する科目のある専門分野を紹介する。

<人文学部>

日本語・日本文化に関する分野：
人間学、日本史、人文地理学、文化人類学、国際関係論、言語学、日本語学、日本文学など

（*詳しくは人文学部ウェブサイト参照）

<https://www.hmt.u-toyama.ac.jp/>

<教育学部>

日本語・日本文化に関する分野：
教育学、日本語学、日本文学、人文地理学、日本史、福祉、政治学、特別支援教育など

（*詳しくは教育学部ウェブサイト参照）

<https://www.edu.u-toyama.ac.jp/jite/>

<経済学部>

日本語・日本文化に関する分野：
経済学、経営学、経営法学など

（*詳しくは経済学部ウェブサイト参照）

<https://www.eco.u-toyama.ac.jp/>

<その他>

日本語・日本文化に関連のある教養教育科目についても履修できる。

* 教養教育科目及び専門科目については、富山大学ウェブシラバス（授業案内）参照

<https://www.new-syllabus.adm.u-toyama.ac.jp/>



日本人学生主催
「ウェルカムパーティ」



日本事情 「書道」



見学旅行

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容

なし。(ただし、見学、地域交流等は前述の⑧「研修・年間スケジュール」で体験することができる。)

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語・日本文化に関する、より専門性の高い学部の専門科目を日本人の学生と一緒に受ける。

⑪ 指導体制

学部の指導教員と国際機構教員が協力して、学業及び生活面の個別指導を行う。

■宿 舎

大学には、国際交流会館がありますが、部屋数に限りがあります。国際交流会館に入居できない場合は、大学が宿舎を紹介します。(大学の周辺にはアパートがたくさんあります。)

・国際交流会館(五福)の概要

部 屋 数 : 単身室 34室

設備備品 : 電磁調理器付キッチン、バス、
トイレ、エアコン、ベッド、机、
いす、冷蔵庫など

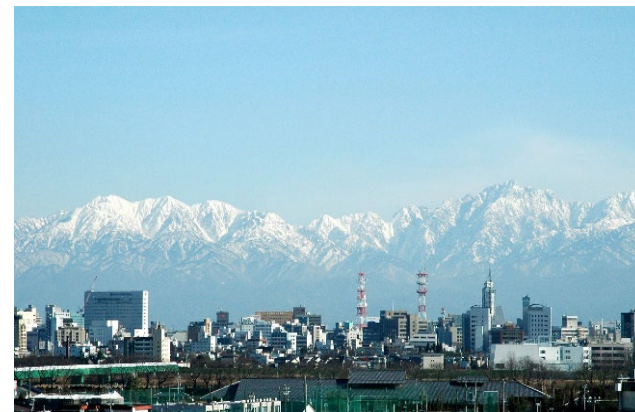
その他設備 : 居室でのインターネット接続が可能(有料)



五福国際交流会館

■修了生へのフォローアップ

- ・富山大学日研究生修了後のキャリアパス(一例)
- ☆母国の大学で日本語を教える。
- ☆JETプログラム国際交流員として日本で働く。
- ☆富山大学大学院やその他日本の大学院に進学。
- ☆日本企業(母国・日本国内)で働く。



大学から見た立山連峰

■問合せ先

<担当部署>

富山大学学務部国際課

住所 : 〒930-8555

富山県富山市五福3190

TEL : +81-76-445-6105 (直通)

FAX : +81-76-445-6039

Email : ryugaku@adm.u-toyama.ac.jp

<ウェブサイト>

富山大学ホームページ

<https://www.u-toyama.ac.jp/>

富山大学国際機構ホームページ

<https://www.ier.u-toyama.ac.jp/>

富山大学国際機構日本語プログラム

<https://www.ier.u-toyama.ac.jp/program/course.html>



金沢大学 (石川県)

修了研究を通じて大学院進学を前提とした研究能力を習得します。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

金沢大学は、1862年の加賀藩種痘所を源流とし、1949年に新制の総合大学として設立されました。現在、4学域、20学類（1）融合学域：先端学類、観光デザイン学類、スマート創成科学類（2）人間社会学域：人文学類、法学類、経済学類、学校教育学類、地域創造学類、国際学類（3）理工学域：数物科学類、物質化学類、機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類、地球社会基盤学類、生命理工学類（4）医薬保健学域：医学類、薬学類、医薬科学類、保健学類及び7研究科（人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科、法学研究科、教職実践研究科、新学術創成研究科）から構成されている総合大学として、幅広い分野での教育・研究活動の拠点となっています。金沢大学は、全国の大学に先駆けて、1956年から外国の大学との交流協定を締結して、学術文化の国際交流並びに、留学生交流を推進してきました。

2) 教員・学生数等（2025年5月1日現在）

【教員数】1,343名、【学生数】10,787名（学士課程：8,216名、大学院：2,536名、別科：35名）

② 国際交流の実績（2025年5月1日現在）

交流協定校数：348機関（64ヶ国、1地域）
大学間交流協定：244機関（61ヶ国、1地域）
部局間交流協定：104機関（31ヶ国、1地域）
留学生在籍数：780名

日本語・日本文化研修生合計受け入れ数：
400名（令和7年度受入れの31期生を含みます）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

	受入れ実数
2025年度	留学生数780人、日研生17人
2024年度	留学生数824人、日研生10人
2023年度	留学生数794人、日研生10人

④ 地域の特色

金沢市は古くからの城下町で、今まで大きな災害に遭わなかったため、昔の建物などが多く残っています。伝統工芸、古典芸能の盛んな、文化の香り高い日本的雰囲気有し、四季の移ろいを実感できる街です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

金沢大学日本語・日本文化研修プログラムは、参加学生の日本語能力ならびに研究能力の向上及び日本社会・文化に対する理解を促進することを目的とした全学習を日本語で行う1年間のプログラムです。

③ 受入定員

15名（大使館推薦5名、大学推薦10名）

④ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムの受講を出願する者は、以下の要件を満たす者としてします。

日本語能力：日常生活に必要な日本語能力（日本語能力試験N2合格程度）を有し、平易な文章の読み書きができる者

所属学部・学科：海外の大学において、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者

学年：海外の大学において3、4年次に在学中の者

学習姿勢：日本研究に対し意欲的であり、1年間積極的な姿勢で本コースの学習に専念する意志を有する者

⑤ 達成目標

修了時点で日本語能力検定N1レベルの日本語力、ならびに大学院進学に必要な研究能力の習得を目指します。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年8月下旬
（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月



兼六園

⑧ 研修・年間スケジュール

授業期間

10月～2月（秋学期）

4月～8月（春学期）

9月下旬	渡日
9月下旬	開講式、オリエンテーション
11月または12月	留学生懇談会
12月下旬	修了研究構想発表会
4月初旬	修了研究中間発表合宿
8月初旬	修了研究発表会
8月中旬	論文提出締切
8月下旬	修了式
8月下旬	帰国



授業の様子

⑨ コースの修了要件

必修授業科目の履修・合格、並びにプログラム終了時の修了研究の口頭発表及び論文提出が修了要件です。本研修プログラム修了者に修了証書を授与します。また、履修した授業科目、成績評価及び単位数が記載された成績証明書を交付します。本プログラムの構成は次のとおりです。なお、1科目（2単位）は15コマ（1回90分）の講義から成ります。

必修授業科目	単位数	
	秋学期	春学期
日本語	18	
日本文化演習Ⅰ	2	2
日本文化演習Ⅱ	2	2
日本文化・社会学習	2	選択
調査実習	2	－
修了研究演習	2	－
修了研究論文及び研究発表	－	6
合計	38	



能登旅行

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本プログラムでは、修了研究論文を最も重要なカリキュラムとして位置付けています。修了時点で、参加学生は大学院に進学するために必要な研究能力を身につけることを目指します。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

「日本語科目」（秋・春学期 合計135コマ）

総合クラス、漢字・語彙クラス及び技能別クラスの授業

「日本文化演習Ⅰ」（秋・春学期 各15コマ）

学内外の専門家による日本語・日本文化についての講義

「日本文化演習Ⅱ」（秋・春学期 各15コマ）

演習形式による発表・ディスカッション

「日本文化・社会学習」（秋学期 15コマ、春学期 選択）

金沢の豊かな伝統文化の体験及び現代日本社会についての学び

「調査実習」（秋学期 15コマ）

研究方法論や日本語によるプレゼンテーションスキルの習得

「修了研究演習」（秋学期 15コマ）

研究方法の習得

「修了研究論文及び研究発表」（春学期 45コマ）

口頭研究発表、修了研究論文の提出

II) 選択科目

正規授業科目の履修（秋・春学期）

学部正規生向けに開講している一般授業科目の履修

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

「伝統工芸と職人の技」
北陸地域の漆工芸や和紙を鑑賞しながら、職人の技と精神を実体験します。

「現代アートとデザイン」
ワークショップやアーティストとの対話、21世紀美術館見学などを通じて、受講生の金沢の現代アートとデザインに関する理解を深めます。

「日本の社会と伝統文化」
金沢の伝統美術・工芸の文化体験を通じ、何百年もの間、匠達の手によって代々継承されてきた技能の一端を垣間見ること、日本文化に対する多角的な観点を形成します。

「ユネスコジオパークとエコパーク」
白山麓の地域をフィールドにし、地域の人々の伝統的な生活様式を体験したり、地域課題や地域再生に向けての様々な取り組みを紹介します。

「サービス業や福祉施設にみるおもてなしの心」
金沢の高齢者介護福祉施設や介護用具プラザなどを訪問し、介護の世界におけるサービス業のシステムとそのおもてなしの精神を学生にも学んでもらいます。

「日本の介護福祉におけるコミュニケーション」
金沢の高齢者介護福祉施設などを訪問し、実際に高齢者といくつかの活動を行うことで日本の介護福祉について学びます。

「日本と金沢の建築・都市、これまでとこれから」
金沢をはじめ日本の建築とまち、人の営みとまちの関連性について理解を深め、建築・都市と文化・経済・歴史の相互関係を理解します。



加賀友禅体験

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

「調査実習」
日本人学生と合同で小グループを形成し、比較文化的な観点から日本社会・文化についての合同調査・研究を行います。

「日本文化演習Ⅱ」
この科目は日本文化演習Ⅰで扱った各テーマに関して、日本人学生も交えて演習形式による発表・ディスカッションを行います。

⑪ 指導体制

指導教員：山本 洋
国際日本研究教育センター・教授
専門：歴史学、文学、留学生教育

副指導教員：小島 莊一
国際日本研究教育センター・特任准教授
専門：日本古代史、東アジア文化史、留学生教育

本プログラムの参加学生は国際共修部に所属し、プログラム担当教員が指導教員として学生の学業・生活指導に当たります。研究指導、発表及び論文作成指導を定期的に個別・全体で実施します。なお、様々な専攻の学生の受入を可能にするために、研究指導を行う際に、人間社会学域等のその専門に応じた教員の協力を得ることもあります。日本語担当教員及び日本文化科目の講義担当の学内教員の合計数は約30名にも上ります。

■宿 舎

本プログラムの参加学生は以下のいずれかの宿舎に入居できます。(2025年10月末現在)

1) 金沢大学国際交流会館(個室型)
(キャンパス内にある金沢大学の留学生及び外国人研究者用の居住施設。単身者に限ります。)
寄宿料、光熱水費：月額約3万5千円

2) 金沢大学学生留学生宿舎「先魁」(シェアハウス型)
(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生の居住施設。単身者に限ります。)
寄宿料、光熱水費：月額約3万5千円

3) 金沢大学学生留学生宿舎「北溟」(シェアハウス型)
(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生の居住施設。単身者に限ります。)
寄宿料、光熱水費：月額約3万8千円

■修了生へのフォローアップ

本プログラムの修了生は、所属大学に戻り学位を取得後、大半が大学院へ進学します。さらに大学院進学者の約半数程度は、本学もしくは日本国内の他大学の大学院へ進学しています。その他、日本で日本企業に就職したり、母国で日系企業に就職するなど、ほとんどの修了生が日本とかかわりのある仕事に就いています。

■問合せ先

<担当部署>
金沢大学国際部留学企画課留学生支援担当
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL: +81-76-264-6096
FAX: +81-76-234-4043
E-mail: st-exch@adm.kanazawa-u.ac.jp

<ウェブサイト>
日研ページ:
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/global-network/study/ilcp/>

金沢大学:
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

<担当教員連絡先>
山本 洋 教授
E-mail: yama@staff.kanazawa-u.ac.jp



格致 KAKUCHI,
the driving force for
the future of people and society

福井大学 (福井県)

自然豊かな福井で日本を体験しよう！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 概要

福井大学は、教育学部、医学部、工学部、国際地域学部の4学部、及び大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科、大学院医学系研究科、大学院工学研究科、大学院国際地域マネジメント研究科の4研究科からなる。



2) 教員・学生数（2025年5月時点）

学生数（正規生）：	学部生	4,049名
	大学院生	992名
教員数：		604名

② 国際交流の実績

留学生在籍数：193名（24カ国・地域）
学術交流協定数：99（大学間）、78（部局間）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数193人、日研生1人
2024年：留学生数175人、日研生1人
2023年：留学生数163人、日研生1人

④ 地域の特徴

福井市は、日本のほぼ中央に位置し、美しい自然と豊かな文化遺産に恵まれたところである。日本海に面し、古くは大陸諸国と都を結ぶ玄関として重要な位置を占め、その長い歴史と伝統、そして四季折々の変化に富んだ美しい自然は、日本の典型的な風情を漂わせている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

- ・主に日本語教育科目を履修し、日本語能力を向上させ、日本文化について理解を深める。
- ・本学の他の留学生や日本人学生と一緒に共通教育科目及び専門科目を履修し、単位修得を目指す。
- ・授業科目：日本語・日本文化研修留学生のための特別な授業科目はない。
- ・履修科目については、単位修得証明書を発行する。
- ・修了要件を満たした場合、修了証書を発行する。

③ 受入定員

4名（大使館推薦3名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講希望するには、以下の条件を満たすことが望ましい。

- ・日本語能力検定試験N2以上。
- ・日本語・日本文化・教育などに関心があり、それらの各分野で研究学習歴があること。

⑤ 達成目標

プロジェクトワークやプレゼンテーションなど実践的な活動を通して日本語能力を向上させるとともに、自身の考えや学習の成果について発信することができる。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年9月下旬
在籍期間：2026年10月1日～2027年9月30日

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬 渡日/オリエンテーション
10月1日 後期（秋学期）授業開始
1月 留学生との交歓会
4月上旬 前期（春学期）授業開始
5月下旬 大学祭
9月上旬 修了判定
9月中旬 修了式
9月下旬 帰国

その他、各種学生イベントを実施している。
また、地方自治体や民間団体主催の見学会・交流活動等も随時実施されている。

- ・着付け・茶道体験
- ・能楽体験講座



「ハロウィンイベント」

⑨ コースの修了要件

下記⑩の掲載科目から11科目かつ合計20単位以上を修得すること。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は原則として、前期・後期各15週開講する。
以下の科目から、必ず各学期7科目以上履修すること。
各科目の内容は変更となる場合がある。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目及び選択必修科目・内容

＜必修科目＞

2科目4単位修得すること。
(各2単位/1コマ、90分x15週)

【留学生のためのプロジェクトワークⅠ（上級）（春学期）】

日本語によるインタビュー活動を日本人学生や地域の人を対象に行う。この活動を通じて、話す、聞く、のような日本語能力を伸ばすだけでなく、日本や日本人に対する理解を深めることを目指す。

【留学生のためのプロジェクトワークⅡ（上級）（秋学期）】

グループで相談して、テーマを設定し、それについて資料を調べたり、調査を行ったりし、その結果を報告書やポスターのような形にまとめる。これら一連の活動を通じて、日本語による情報収集を行う技術を身につけたり、わかりやすい日本語で情報を発信したりする。自分の興味のあることや独自の視点を掘り下げるにより、それらについて理解を深める。さらに、ほかの学生と一つのことについて話し合い、一緒に活動することによって、お互いの見方を知り、コミュニケーション能力を磨く。



「留学生のためのプロジェクトワークⅠ」
インタビューの成果発表会

＜選択必修科目（日本語科目）＞

日本語プレースメントテストの結果に基づき、日本語レベルに応じて選択すること。以下の科目から、3科目3単位以上修得すること。
(各1単位/1コマ、90分x15週)

【日本語A（中上級）（春学期）】

日本社会や文化など、多様な話題を取り上げ、話す練習をする。具体的には、話したい内容を整理しながら話したり、相手を意識して伝えることを目指し、様々な状況を設定して、話す練習をする。さらに、相手の話を整理しながら聞き、それに適切な応答ができるようになる練習も行う。

【日本語B（中上級）（秋学期）】

依頼、許可など、それぞれの場面で、相手に応じた表現を使って、相手との関係を維持し、目的を達成できるようになる。

【日本語C（中上級）（春学期）】

大学生生活に必要なレポートの書き方の基礎を学ぶ。レポートを書くために必要な、客観的な文章の書き方、根拠の示し方、意見の述べ方などを学ぶ。

【日本語D（中上級）（秋学期）】

論理的な文章の書き方やレポート作成に必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。具体的には、レポートや論文を書く際に必要となる、主張の提示、根拠の示し方、意見や考察のまとめ方、適切な引用方法などを習得し、様々な場面で求められる論理的な文章が書けるようになることを目指す。

【日本語E（上級）（春学期）】

フォーマルな場面の議論において、正確に自分の考えや意見を表現し、考えと考えの間の関係を明確にしながら、活発な議論に参加できるようになる。その場にふさわしい丁寧さでコミュニケーションができる。

【日本語F（上級）（秋学期）】

講義やゼミなどで自分の意見、主張等をプレゼンテーションソフトを用いながら、わかりやすい日本語で論理的に示すことができるようになるための練習を行う。

【日本語G（上級）（春学期）】

長く複雑な文章を繰り返し読むことにより、その内容を詳細に理解できるようになる。また、グループ活動を通して、話し合いをしながら読んだ内容について理解を深める。最後に、読解の内容と関連するトピックで小論文・レポートが書けるようになることを目指す。

【日本語H（上級）（秋学期）】

日本語の一般書を読んで、その内容をレジュメの形にまとめて、わかりやすく他者に報告する。それをもとに話し合いながら内容についての理解を深め、その上で自分の意見をミニレポートとしてまとめる。学期の最後には総まとめのレポートを執筆する。

＜選択必修科目（共通教育科目）＞

以下の科目から、2科目4単位以上修得すること。
(各2単位/1コマ、90分x15週)

【日本事情（春学期/秋学期）】

福井の企業・産業、キャリア支援、学校教育、言語（方言）などさまざまな分野について専門家の講義を聞き、現在の福井について理解を深める。

【日本の文化（春学期/秋学期）】

日本や福井の文化を知るために、日本の食文化や茶道などのテーマごとに、日本語による講義で知識を得た後、福井県内にある施設を訪問したり、体験学習をするなどの校外学習を行う。知識と体験を通して、日本の文化について理解を深めていく。

※内容が変更になる可能性がある。



「日本の文化」茶道体験

【異文化コミュニケーション入門（秋学期）】

【多文化共生の取組と課題（春学期）】

日本人学生と留学生の共修授業。国境を越えて多面的な交流が進むグローバル化時代には、異なる価値観や世界観を互いに理解し、認め合い、互いが協力して諸問題を解決し仕事を組み立てられる人材が求められる。そのことを、グループによる課題作成を通して学ぶ。

＜選択必修科目（専門科目）＞

所属学部専門科目から各学期2科目選択して修得すること。

II) 選択科目・内容

＜選択科目（共通教育科目・専門科目）＞

以上の科目に加え、希望によりその他の共通教育科目及び他学部の専門科目の中から適宜履修できる。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

前述の選択必修科目（共通教育科目）のうち、「日本事情」及び「日本の文化」が該当。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

前述の選択必修科目（共通教育科目）のうち、「異文化コミュニケーション入門」及び「多文化共生の取組と課題」が該当。

⑪ 指導体制

1) グローバル人材育成研究センター日本語教育部

プログラム担当

桑原 陽子 （准教授）

佐藤 綾 （准教授）

LI JINGYI （講師）

2) サポート体制

- ・バディ：日本人学生や先輩留学生が、渡日当初から種々の手続きの手助けや、キャンパス内の案内等、身近な相談相手となり留学生をサポートする。
- ・U-PASS (University Peer Academic Support Service) : 学生チューターによる日本語学習サポートを受けることができる。

■宿 舎

本プログラムの学生は以下のいずれかの部屋に入居することができる。ただし、寮の入居状況により民間アパートへの入居になる可能性がある。

- ・入居期間：1年間
- ・入寮費：20,000円
- ・共益費：3,000円/月
(水道光熱費は別途)
- (インターネットは別途契約)

- ・寄宿料：
【福井大学留学生会館】
居室A 14,600円/月
居室B 17,400円/月
【福井大学牧島ハウス】
単身室 11,000円/月

- ・宿舎設備・備品：ミニキッチン、ユニットバス、トイレ、机、イス、ベッド、冷蔵庫、本棚、スタンド、エアコン等
- ・共用設備：洗濯機、乾燥機（各1回100円）
- ・宿舎は自分の居室を含め全館禁煙。牧島ハウスは敷地内も禁煙。
- ・宿舎周辺の生活情報・通学時間：
留学生会館からキャンパスまで徒歩7分。牧島ハウスはキャンパス内にある。最寄駅までは徒歩3分。周辺にはスーパーやコンビニ、銀行、郵便局などがある。



福井大学牧島ハウス



福井大学留学生会館



■修了生へのフォローアップ

①キャリア支援

プログラム修了後に日本企業または日系企業への就職を希望する学生に対し、留学生向け企業説明会やビジネス日本語講座等、様々なイベントを周知している。また、インターンシップを希望する学生には、大学のキャリア支援課を紹介するなど個別に相談に応じている。

②ネットワーキング

本学では、留学生同窓会をアジアを中心に現在までに17支部を設立し、各国支部と連携している。その活動を推進するために、グローバル・エンゲージメント推進本部ネットワーク誌「こころねっと」を発行し、帰国留学生と情報交換を行っている。



U-PASSの指導風景

■問合せ先

＜担当部署＞

福井大学学務部国際課

住所：〒910-8507

福井県福井市文京3-9-1

TEL：+81-776-27-8405（直通）

FAX：+81-776-27-9715

Email：gk-iadexchange@ml.u-fukui.ac.jp

＜ウェブサイト＞

福井大学：<https://www.u-fukui.ac.jp/>

グローバル人材育成研究センター：

<http://www.lc.u-fukui.ac.jp/>





岐阜大学 (岐阜県)

日本語をみがく秋学期、日本文化に親しみ論文に集中する春学期

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

●岐阜大学は、5学部・1学環、9大学院研究科、学内共同教育研究支援施設、全国共同利用施設、図書館、医学部附属病院などからなる総合大学です。本学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の採択、「国際教養コース」やjoint degree programの開設など、広い分野にわたって質の高い教育・研究が行われています。

●岐阜大学のある岐阜市は、東京から約2時間（新幹線利用）、大阪や京都から約1時間（同）、名古屋から約20分という交通の便に恵まれた地方都市です。キャンパスのある柳戸地区は、岐阜駅からバスで約30分、自然豊かな田園地帯にあります。静かな環境に恵まれ、落ち着いた雰囲気の中で勉学に集中することができます。

●学部及び学生数等（2025年5月現在）

○学部・学環＝教育学部・地域科学部・医学部・工学部・応用生物科学部・社会システム経営学環

○大学院＝教育学研究科・地域科学研究科・医学系研究科・工学研究科・自然科学技術研究科・共同獣医学研究科・連合農学研究科・連合創薬医療情報研究科・社会システム経営学院

○教員 867名

○学生 学部生 5,629名 大学院生 1,711名
研究生・聴講生 133名 合計 7,473名

② 国際交流の実績（2025年5月現在）

●現在、20カ国51大学と大学間学術交流協定、29カ国62大学と部局間学術交流協定を結んでおり、活発な国際交流を行っています。

●留学生在籍数 283名（約8割が大学院生、37カ国から）

●外国人研究者在籍数 14名

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数283人、日研生5人

2024年：留学生数296名、日研生5名

2023年：留学生数294名、日研生6名

④ 地域の特徴

●岐阜県は、日本のちょうど中央にあります。北部には高い山々が連なり、南部には清らかな川が流れています。日本の美しい自然と古き良き文化が残っており、伝統と現代とが調和した生活が見られる地域です。織田信長が城を構えた地としても有名です。

●岐阜県には、高山・白川郷・郡上など、全国的に有名な観光地があります。岐阜市でも、中央を流れる長良川では伝統的な鵜飼が行われ、そのほか多くの文化資源に恵まれています。

●岐阜市は、人口約40万人の中規模都市です。大都市より物価が安く、地域コミュニティ間の交流も活発なので、留学生活を送るのに適した地域です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

b) 主に日本語能力の向上のための研修

日本文化を深く学びたい学生、日本語力を向上させたい学生、どちらにも対応できるコースを提供しています。

●日本語能力のレベルに応じて、日本語クラスを受講することができます。そのため、段階的で効果的な日本語能力の向上が可能となっています。

●多彩な日本文化科目を開設しています。受講生の興味・関心に従ってこれらの科目を受講することになります。

●1年間（秋学期・春学期）で効果的な学習ができるよう、本コース受講生対象のクラスを設けています。

●能・狂言等の鑑賞、地域文化体験、博物館見学などを行い、伝統文化に触れます。

●岐阜県内（岐阜市・郡上市など）および近県へ数回、見学や実習の旅行に行きます。

●岐阜大学留学生対象の旅行にも参加することができます。

●日本人学生と交流するクラスも設置しています。また、日本人学生および学部留学生用の授業を履修することも可能です。

●日研生をサポートするチューターがいます。

●本コース修了後、日本の大学院に再留学する修了生も少なくありません。

●修了生の感想をぜひご覧ください：

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/education/jlscourse/message/>

③ 受入定員

10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

※大使館推薦の学生を優先的に受け入れます

④ 受講希望者の資格、条件等

- 在籍大学において日本語・日本文化を主専攻とする学部学生（2年生以上）であること。
- 日本語能力試験N2合格以上、あるいはそれに相当する日本語力を有していること。
- 他専攻であっても、日本への強い興味を持ち、N2相当の日本語力を有する場合は可。

⑤ 達成目標

- 日本語能力の向上を目指すとともに（日本語能力試験N1合格以上）、実体験を通して日本文化についての広い知識を学びます。
- 修了論文作成を通して、研究および論文執筆・発表の基礎を身につけます。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年10月上旬 ～ 2027年8月下旬
（在籍期間：2026年10月1日～2027年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 10月初め：渡日
- 10月：秋学期ガイダンス・開講式
- 11月：大学祭
- 12月：伝統衣装ワークショップ
- 1月：論文テーマ決定
- 4月：春学期ガイダンス
- 5月：郡上踊りワークショップ
- 6～7月：能楽ワークショップ等文化体験
- 8月：修了論文提出、修了論文発表会、論文審査、成績判定、修了式（2025年は8月21日）
- 8月末：帰国
- （1年を通して随時上記以外の文化体験、地域貢献活動を実施）

⑨ コースの修了要件

- 日本語・日本文化研修コースで規定されている講義科目を受講し、出席率を満たした上で、一定の成績を修めて必要単位を取得すること（秋学期19単位、春学期21単位。次表参照）。
- 修了論文を執筆し口頭発表すること。
- 早期修了は、原則として認めません。
- 成績証明書、修了証書を発行します。
- 単位認定・単位互換は、在籍大学との交渉を通じて可能です。在籍大学に確認してください。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

- 1）研修・コース科目の特徴
- 実体験を伴って多彩な日本文化に触れることができます。秋学期には伝統衣装、春学期には、郡上踊り、能楽、茶道、それぞれのワークショップが予定されています。
- 岐阜地域の文化と歴史について、詳しく学べます。
- 修了論文指導が非常に丁寧で充実しています。

【日本語科目】

- 「総合日本語」
中上級レベルの文法・語彙・読解・口頭表現・文章表現など、総合的な日本語能力の向上をはかります。
- 「日本語読解演習／文章表現／口頭表現／聴解演習」
個別の日本語能力の上達をめざします。

【日本文化科目】

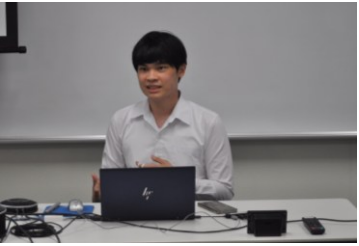
- 「日本文学概論」「地域実見-岐阜を知る-」「日本文化へのいざない」
日本の社会と文化を学び、自国の社会と文化との相違を認識します。これらは本コース受講生のために設定されている科目です。
- 「日本事情C I」「言語学入門」
日本人学生とのディスカッションや共同作業を通して、多文化社会についての理解を深めます。

【全学共通教育科目】

- 日本人学生用に開講されている科目です。多様な講師による日本語での講義を受講します。

【論文指導・修了論文】

- 問題意識を高めた上で、論文の作成に進みます。論文完成後、修了論文口頭発表会を開催します。
- 2025年度（24期生）岐大日研生の修了論文テーマ
・あいつちについて ―中国人留学生の視点から見る―
・中国における日本のスポーツアニメの異文化伝播
・日本語の文字のイメージ
・侘び寂び：日本美学の核心とその異文化的視点
・日本とベトナムの「孤食」の比較研究



2）研修・コース開設科目

- 授業は秋学期・春学期原則各15週開講されます。
- 必要単位数は秋・春合計40単位です。
- 授業科目名は変更される場合があります。
- 一週間あたりのコマ数（1コマ＝90分）は下記のとおりです。

1）必修科目

授業科目	秋学期	春学期	計
総合日本語	5（5）	—	5（5）
全学共通教育科目	—	3（6）	3（6）
日本語読解演習	1（2）	1（2）	2（4）
日本語文章表現	1（2）	1（2）	2（4）
日本語口頭表現	1（2）	1（2）	2（4）
日本語聴解演習	1（2）	—	1（2）
日本事情C I	1（2）	—	1（2）
日本文学概論	1（2）	—	1（2）
地域実見岐阜を知る	1（2）	—	1（2）
言語学入門	—	1（2）	1（2）
日本文化へのいざない	—	1（2）	1（2）
論文指導	—	1（1）	1（1）
修了論文	—	（4）	（4）
合計	12（19）	9（21）	21（40）

Ⅱ) 選択科目

●より専門的な内容を学びたい場合は、学部開講科目の履修も可能な場合があります。ただし、担当教員の許可が必要です。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

●秋学期の「地域実見」では、岐阜県内施設（博物館、史跡、農園等）を訪問し、地域の歴史や文化について学びます。春学期には郡上踊りのワークショップもあります。

●本学の歴代の日研究生は、地域（主に岐阜県郡上市）の観光振興プロジェクトや人事課研修に貢献しており、今後も継続が予定されています。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

●春学期には、日研究生コースの一部として全学共通科目を選択します。日本人学生とともに学ぶ科目で、グループ活動が重視される授業では、活発な意見交換が求められます。ただし、全学共通科目の履修には、十分な日本語能力と担当教員の許可が必要です。

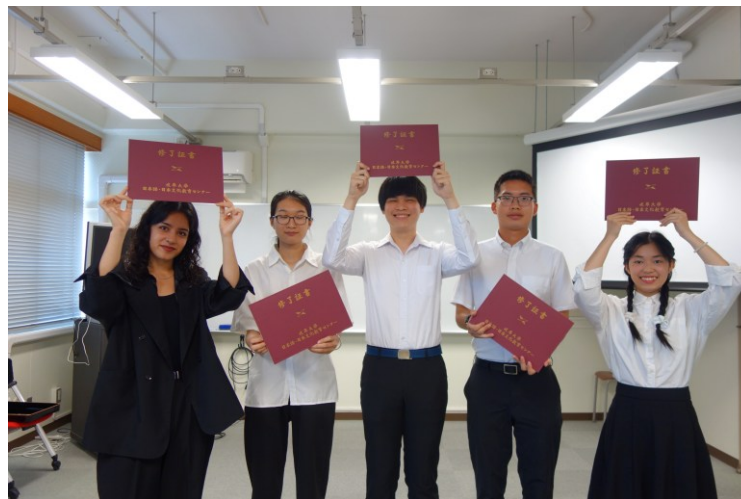
⑪ 指導体制

【責任教員】

氏名	所属	職名	専攻
土谷桃子	日文センター	教授	日本文学

【協力教員】

上記以外の日文センター教員、地域科学部・教育学部の教員、非常勤講師など



■宿 舎

●岐阜大学には、大学内に外国人留学生・研究者用の宿泊施設である国際交流会館があります。

●日本語・日本文化研修コース受講生は、この宿舎の単身室が優先的に提供されます。過去の本コース受講生は、全員本宿舎に入居しています。

【国際交流会館】

鉄筋コンクリート4階建（A棟）・5階建（B棟）
部屋数 単身室69室・夫婦室14室・家族室7室
（単身室A棟5,900円/月・B棟4,700円/月）

※今後、家賃は変更する可能性があります。



■修了生へのフォローアップ

●岐阜大学の日研究生コース修了者の特色は、再来日し日本の大学院に入る学生が多いことです。日本への再留学を希望する学生には、随時進路相談に乗っています。

●過去には、岐阜大学をはじめ、全国各地の国立大学の大学院に進学しています。研究者として本学に戻ってきた修了者もいます。

●大学または大学院修了後、日本で就職した学生、帰国して日系企業に就職した学生も多いです。

●本コース修了生がたびたび岐阜大学を訪問してくれることを、とても嬉しく思っています。

Facebookでも継続的に交流しています。



■問合せ先

<担当部署>

岐阜大学学務部国際事業課留学支援室

住所：〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1

TEL：+81-58-293-2142（直通）

FAX：+81-58-293-2143

Email：inbound@t.gifu-u.ac.jp

<ウェブサイト>

岐阜大学ウェブサイト

<http://www.gifu-u.ac.jp/>

岐阜大学日本語・日本文化教育センターサイト

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/>
（Facebookもご覧ください）

日研究生コースページ

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/center/education/jlscourse/>



静岡大学 (静岡県)

日本語教育、日本文化一般、自由研究、地域交流の総合プログラム

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

(1) 静岡大学の歴史

静岡大学は、1949年5月31日に旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校の5校を包括して、新制度の静岡大学として発足しました。その後、県立静岡農科大学の移管、キャンパスの統合、学部の改組・拡充を行い、2025年10月現在7つの学部から構成されています。

静岡キャンパス：人文社会科学部、教育学部、理学部、農学部、グローバル共創科学部

浜松キャンパス：情報学部、工学部

(2) 学生数等（2025年5月1日現在）

教員数：785名 職員数：348名

学生数：学部生 8,465名

大学院生 1,641名

② 国際交流の実績

(1) 大学間交流協定数 65

(2) 部局間交流協定数 48

(2025年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数389人、日研生2人

2024年：留学生数418人、日研生3人

2023年：留学生数410人、日研生3人



大学公式キャラクター「しずっぴー」

④ 地域の特徴

静岡県は本州の中央部で東京と大阪のほぼ中央に位置し、交通がとても便利です。南側には海、北側は富士山など高い山があり、自然に恵まれた住みやすいところです。観光地も多く、温泉などいろいろなところへ旅行に行ったり、名産品を楽しんだりできます。

気候はあたたかく、みかんやメロン、お茶など農業が盛んです。また、静岡県は楽器や輸送機器、薬品や健康産業など幅広い産業も発展しています。街の雰囲気も穏やかで、人々も親切です。



茶畑と富士山



浜松風揚げ祭り

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特徴

日本語授業を中心に、留学生の専門分野に関連した日本文化を学び、将来、日本と留学生の母国との架け橋になるような人材を育成します。

留学期間を10月～3月と4月～8月に分け、10月～3月は語学教育（日本語教育）中心の授業を組み、様々な日本人との交流活動にも参加します。4月～8月は留学生の専門分野を中心に、修了レポート作成、自由研究、地域交流などのプログラムを設定します。

③ 受入定員

9名（大使館推薦6名、大学推薦3名）

静岡キャンパスで受け入れます。

④ 受講希望者の資格、条件等

(1) 外国の大学学部在学し、日本語・日本文化に関する分野を専攻する者

(2) 一定の日本語能力を有する者

（日本語能力試験N2以上）

(3) 2026年9月下旬の指定する日に渡日できる者

⑤ 達成目標

(1) 日本語

留学生のレベルに合わせて、中級から上級までのクラスを受講できます。最終目標は上級レベル（日本語5）であり、上級のレベルに達した学生は、全学教育科目の授業を中心に、さらに高度な日本語力を身につけ、自分の専門分野のレポート作成ができるようになります。

(2) 日本文化

伝統文化や歴史、文学、教育、現代社会などに関する様々な講義が用意されています。学生は、自らの関心に応じて関連する講義を受講し、専門分野に関する基礎的な知識を身につけます。また、フィールドワークや各種イベントへの参加を通じて、日本文化への理解を深めます。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年8月下旬


（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）

（帰国は8月下旬の予定）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月末	・ 渡日 ・ プレイメントテスト オリエンテーション
10月	・ 授業開始
11月	静大祭（大学祭） 
12月末～ 1月初め	<冬休み>
2月初め	試験期間
2月中旬	授業終了
2月中旬 ～3月末	<春休み>
4月初め	・ プレイメントテスト オリエンテーション ・ 授業開始
5月	春のビッグフェスティバル(静岡)
8月初め	試験期間、授業終了
8月下旬	修了式、帰国

国際交流ラウンジでは
留学生と日本人との
イベントが学生主体で
随時行われます。



⑨ コースの修了要件

必修科目を含む各学期7科目以上の授業（年間で14科目以上）を履修、単位を修得し、レポートにより専門の研究を修了したと認められる者に、修了証を授与します。なお、修得した単位については、8月以降に成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

全てのレベルの日本語授業を開講するとともに、留学生と日本人学生がグループで地域の問題解決を目的としたアクションプランをつくる科目が開講されています。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

留学生の日本語レベルによって必須科目が異なります。

- ・ 日本語レベル3の学生：日本語3 (JLPT N3レベル)
- ・ 日本語レベル4の学生：日本語4 (JLPT N2レベル)
- ・ 日本語レベル5の学生：日本語5 (JLPT N1レベル)

日本語以外の必修科目については、指導教員との相談の上、研修希望分野を学ぶために必要な基礎科目を履修します。

◆日本語科目（日本語・日本文化研修科目）

日本語・日本文化 研修科目		時間数		
		後期 10～3月	前期 4～8月	計
日本語3	読解・文法	30	30	60
	聴解・語彙	30	30	60
	作文・話し方	30	30	60
	日本語総合	30	30	60
日本語4	読解・文法	30	30	60
	聴解・語彙	30	30	60
	作文・話し方	30	30	60
	日本語総合	30	30	60
日本語5	アカデミック リーディング	30	30	60
	アカデミック ライティング	30	30	60
	日本語と文化	30	30	60

II) 選択科目

レベル5以上の日本語学習を希望する場合は、学部留学生が受講する日本語科目を受講することができます。「日本語Ⅰ～Ⅵ」は、大学における学習・研究や日常生活に役立つ総合的な日本語能力を身に付けます。「日本事情」は、日本文化や異文化理解についての基礎的な知識を養います。

◆日本語科目（留学生科目）

全学教育科目		時間数		
		後期 10～3月	前期 4～8月	計
日本語Ⅰ	レポート作成		30	30
日本語Ⅱ	アカデミック スキルズ		30	30
日本語Ⅲ	情報リテラシー	30		30
日本語Ⅳ	批判的日本人研究	30		30
日本語Ⅴ	就職と日本語		30	30
日本語Ⅵ	企業の分析	30		30
日本事情	異文化理解	30		30

また、様々な専門科目を選択することもできます。それぞれの科目の時間数は30時間です。これら以外にも多くの科目が開講されています。なお、これらの科目を受講する日本語レベルは上級が望ましいです。

◆専門科目（例）

人間学概論、社会学概論、心理学概論
文化人類学概論、歴史学概論、日本史概説
日本・アジア言語文化基礎論、日本文学概論
日本語学概論、書道、専門日本語基礎
憲法総論・統治機構、法学入門、日本経済史
国際社会と日本、国際日本学基礎
その他、日本文化に関連する科目
（全学教育科目・学部開講専門科目の一部）

3) 見学、地域交流等の参加型科目

「日本語と文化」では地域の高校生とディスカッションをしたり、静岡市内各所を訪問し地域の魅力を発見します。正課外も地域交流の機会が多くあります。

4) 日本人学生との共修等の機会

「日本事情」では日本人と留学生混合で異文化理解について学習します。そのほか、「国際社会とグローバルリーダー」「多文化共修演習」など日本人学生とともに静岡や世界の問題について学ぶ科目もあります。



⑪ 指導体制

(1) 指導教員：

留学生1人に対し、国際連携推進機構教員1人が、学習・生活面の指導を行います。

2026年指導教員：案野、徐

(2) チューター：

留学生1人に対して1人の静岡大学学生チューターが付き、特に静岡にきたときの出迎えや、各行政手続きなどを手伝います。

(3) 協力教職員：

指導教員とは別に、留学生の日本での学習・生活・健康面について、様々な協力体制が整っています。

- ・ 静岡大学国際連携推進機構教員
- ・ 人文社会科学部国際連携推進委員会
- ・ 教育学部国際交流委員会
- ・ 情報学部国際交流委員会
- ・ 静岡大学国際課
- ・ 国際交流ラウンジ

(4) 留学生カウンセラー：

静岡大学には留学生のためのカウンセラー（臨床心理士・公認心理師）がいます。心の問題や勉強、生活の相談にのってくれます。英語と日本語の使用が可能です。

■宿 舎

留学生に宿舎を提供するとともに、様々な国籍の学生が集まる国際交流の場を提供することを目的として、留学生宿舎を用意しています。入居の許可期間は原則として1年間です。なお、室数が限られているので、希望しても必ずしも入居できるとは限りません。

① 静岡国際交流会館

室数：95室

面積(㎡)： 居室7 ㎡、共有43 ㎡

入居時のみにかかる費用：約13,200円

宿舍料等(月額)：約27,400円



② 浜松国際交流会館1号館

室数：35室

面積(㎡)：12.42㎡

入居時のみにかかる費用：約16,800円

宿舍料等(月額)：約23,000円

③ 浜松国際交流会館2号館

室数：95室

面積(㎡)： 居室7 ㎡、共有43 ㎡

入居時のみにかかる費用：約5,500円

宿舍料等(月額)：約22,700円

④ あけぼの寮

室数：45室

面積(㎡)：15㎡

退去時のみにかかる費用：約21,000円

宿舍料等(月額)：約15,000円

■修了生へのフォローアップ

(1) 海外同窓会

インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシアで同窓会活動を行っています。

(2) 修了生の声

静岡市在住のインドネシア出身のエフィ・グスティ・ワフユニです。2001年10月に日研生として、1年間、静岡大学の人文社会科学部で学びました。同期の日研生たちと観光地したりイベントに参加し、様々な体験と発見を通して日本語能力の向上を感じ、ワクワクしました。とても貴重な1年間でした。2005年から静大の修士課程に入り、翌年、静岡県ふじのくに親善大使（現在は静岡県ふじのくに国際交流親善大使）に任命され、両国の架け橋として、静岡県民に母国の文化を紹介しました。その他、通訳や翻訳、インドネシア語の講師、相談員として外国人のサポートをしてきました。現在は年間契約社員として、教育関連の会社に勤務しています。



■問合せ先

<担当部署>

静岡大学学務部国際課国際学生交流係

住所：〒422-8529

静岡県静岡市駿河区大谷836

TEL： +81-54-238-4260（直通）

FAX： +81-54-238-5041

Email： inbound@adb.shizuoka.ac.jp

<ウェブサイト>

静岡大学国際連携推進機構：

<https://www.suoic.shizuoka.ac.jp/>

静岡大学：

<https://www.shizuoka.ac.jp/>



名古屋大学 (愛知県)

実践的な日本語力の向上、日本社会・日本文化の更なる理解をめざす

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

名古屋大学は、日本の主要な国立大学の一つであり、世界中から多様な学生を受け入れている。中部地方の中心都市・名古屋に位置し、1871年の創立以来、最先端の研究と教育を推進してきた。現在は9学部・13大学院研究科を有し、約16,000人の学生が学んでいる。

特に国際交流に力を入れており、世界106カ国・地域から2,500人以上の留学生が在籍している。また、学術交流協定は世界中の497機関と結ばれており、グローバルな学びの場が広がっている。留学生向けの宿舎も充実しており、安心して学業や生活に専念できる環境が整っている。

2) 教員・学生数等 (2025年5月1日現在)

学 部：文学部、教育学部、法学部、経済学部、
情報学部、理学部、医学部、
工学部、農学部

大学院：人文学研究科、教育発達科学研究科、
法学研究科、経済学研究科、
情報学研究科、理工学研究科、
医学系研究科、工学研究科、
生命農学研究科、国際開発研究科、
多元数理科学研究科、環境学研究科、
創薬科学研究科

教職員数：3,306名

学生数：学部等 9,524名 大学院 6,435名
計 15,959名

② 国際交流の実績

- 1) 留学生在籍数：2,543名 (106カ国・地域)
(2024年度)
- 2) 研究者等受入数：504名 (52カ国・地域)
(2024年度)
- 3) 学術交流協定数：497 (2025年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2025年：留学生数 2,041人、日研生 5人
2024年：留学生数 2,009人、日研生 8人
2023年：留学生数 2,140人、日研生 7人

④ 地域の特徴

名古屋市は日本三大都市圏の一つであり、人口230万人を誇る活気ある都市である。日本の中心に位置し、東京や京都、大阪など主要都市へのアクセスも抜群である。大学キャンパスは市の中心部から地下鉄で約15分と、便利な立地にある。

名古屋市は、豊かな自然と都市の利便性が調和した街である。四季折々の自然を楽しめるだけでなく、伝統文化や現代的なJポップカルチャーも体験可能である。

年間を通してアウトドアスポーツや文化イベントも盛んであり、留学生にとって新しい発見が多い。また、大都市でありながら物価が比較的安く、静かな街並みで治安も良いため、留学生生活を安心して過ごすことができる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化研修留学生のためにデザインされた研修プログラムを提供する。専門的な知識および体系的な言語学習を盛り込んだプログラムを提供する。

1. 日本語の学習

・日研生対象の専門授業および言語教育センターで開講している日本語クラスを受講することによって、日本語の技能別能力の向上を図るとともに専門知識を学ぶ。

・教室内外での学習を通して、実践的な日本語力を身に付けることができる。

2. 研究者志向の留学生への対応

・レポート作成法、入門講義 (「日本語学」「多文化共生」「日本語コミュニケーション論」「日本文学」など) 等の授業を通して、各分野の基礎知識・研究方法が学べる。

③ 受入定員

20名 (大使館推薦17名、大学推薦3名)



名古屋城



Common Nexus

④ 受講希望者の資格、条件等

1. 中級レベル以上の日本語力を有すること（「日本語能力試験」N2相当以上）。
2. 日本語・日本語学・日本語教育学・日本文学・日本学（日本研究）を主専攻とすること、またはそれらの分野に強い関心をもつこと。
3. 勤勉で学習熱心な人物。文化の架け橋となることへの意欲を有する人物。

⑤ 達成目標

1. 上級レベルの日本語力の習得（話す、聞く、読む、書く、のすべてにわたる）。
2. 日本、日本文化、日本社会に対する的確な理解。
3. 各自の専門分野に通じる基礎的な知識と研究方法の習得。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年10月1日 ～ 2027年9月30日
修了式は9月上旬～中旬を予定

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日、開講式、オリエンテーション

10月～翌年2月初旬：秋学期の授業（日本語、日本事情、日本文化の関連科目）、研修旅行（前期）

12月下旬～1月上旬：冬季休業

2月～3月：春季休業

3月上旬：研究テーマ発表会

4月～8月上旬：春学期の授業（日本語、日本事情、日本文化の関連科目）、研修旅行（後期）

8月中旬～9月：夏季休業、研修成果レポート執筆

9月上旬：研究成果発表会（2024年度は9月3日）・修了レポート提出

9月上旬～中旬：修了式（2024年度は9月4日）

9月中旬：帰国

⑨ コースの修了要件

プログラムの必須科目44単位をすべて取得し、選択科目を4単位以上取得する。研修修了レポートを作成して提出する。コース修了者には修了証書が与えられる。成績証明書の発行可（単位互換は学生の本国の在籍大学の判断による）。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

日本語日本文化研修留學生のための体系的なプログラムにより、上級レベルの日本語力を身につけ、日本語・日本文化に対する理解を深める。全ての科目を通して学問探求の基礎力を養う。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（○コマ数、時間数）・内容

A. 日本語・日本文化特別プログラム（科目名は年により変更の場合がある）

（年間225時間、150コマ、20単位）

1. 「日本語総合演習Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本語総合演習Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
2. 「レポート作成法Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「レポート作成法Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
3. 「日本語教育学Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本語教育学Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
4. 「日本論入門」（前期15コマ、2単位）
「日本文学入門」（後期15コマ、2単位）
5. 「日本美術史入門」（前期15コマ、2単位）
「日本の歴史入門」（後期15コマ、2単位）

B. 研究修了レポート（4単位）

C. 日本語技能別クラス（上級レベル）

（年間225時間、150コマ、20単位）

「文法Ⅰ、Ⅱ」「会話Ⅰ、Ⅱ」「聴解Ⅰ、Ⅱ」「読解Ⅰ、Ⅱ」「作文Ⅰ、Ⅱ」

D. 教養科目

「留学生と日本～異文化を通しての日本理解」（前期22.5時間、15コマ、2単位）



豊田講堂

II) 選択科目・内容

入門講義（以下は2023年度の科目例。年により変更の場合がある。）

1. 「日本語コミュニケーション論Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本語コミュニケーション論Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
2. 「多文化共生論Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「多文化共生論Ⅱ」（後期15コマ、2単位）
3. 「日本文学Ⅰ」（前期15コマ、2単位）
「日本文学Ⅱ」（後期15コマ、2単位）

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

愛知県や東海地方の産業や伝統文化の理解を深めるために地域の見学を実施する。郡上八幡城、有松絞商工協同組合の協力を得て体験見学等を実施する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

全学共通科目「留学生と日本～異文化を通しての日本理解」「多文化コミュニケーション論」等の授業を聴講することができる。これらの授業において日本人学生と討論や協働作業を行うことによって日本社会や日本文化に対する相互理解を深める。

⑪ 指導体制

言語教育センターの専任教員が学業の指導教員として、日本語の学習支援、研究活動及び修了レポートを執筆するためのきめ細かな指導・助言を行っている。また、TAとチューター制度を活用し、大学における勉学や日本での生活をサポートする。

留学生のためのアドバイジング専門の教員が、生活面のきめ細かな指導・助言を行っている。



日本文化体験その1



日本文化体験その2

■宿 舎

1. インターナショナルレジデンス大幸 (地下鉄で25分)

所在地：名古屋市東区大幸南1丁目1番18
施 設：鉄筋コンクリート8階建、
単身室（13㎡）224室、夫婦室（31㎡）4室、
多目的室、交流スペース（兼ダイニングキッチン）、洗濯室、事務室等があり、各室にはバス、
トイレ、デスク、チェア、電気スタンド、マットレス、ベッド本体（収納付き）、洋服棚、冷蔵庫、
エアコン等が備え付けられている。

2. インターナショナルレジデンス山手ノース (徒歩10分)

所在地：名古屋市昭和区高峯町165
施 設：鉄筋コンクリート3階建
留学生用…単身室（15㎡）104室
多目的ルーム、コインランドリー等があり、各室
には台所、バス、トイレ、ベッド、カーテン、
オープン、クローゼット、収納棚、机、椅子、卓
上電気スタンド、エアコン、冷蔵庫、網戸、電子
レンジ等が備え付けられている。



インターナショナルレジデンス大幸

3. インターナショナルレジデンス山手サウス (徒歩10分)

所在地：名古屋市昭和区高峯町165
施 設：鉄筋コンクリート7階建
留学生用…単身室（7㎡）112室
台所（オープンリビング）、冷蔵庫、電子レンジ、
バス、トイレ、コインランドリー等があり、各室
には、ベッド、オープンクローゼット、収納棚、
机、椅子、卓上電気スタンド、網戸、エアコン、
カーテン等が備え付けられている。

4. 石田記念インターナショナルレジデンス妙見 (徒歩10分)

所在地：名古屋市昭和区妙見町40
施 設：鉄筋コンクリート5階建
留学生用…単身室（15㎡）93室
台所、バス、トイレ、ベッド、カーテン、机、椅子、
エアコン、卓上電気スタンド、電子レンジ、
冷蔵庫、収納庫、コインランドリー等が備え付け
られている。



インターナショナルレジデンス山手ノース

■修了生へのフォローアップ

在学中よりキャリアサポートセンターにおいて進路相談を行っている。修了生は本プログラムの経験をいかしてさまざまな方面で活躍している。

本学大学院進学（人文、法、経済等）をはじめ各国大学院への進学、日系企業への就職、通訳・翻訳者等さまざまなキャリアパスを築いている。帰国後は本学の同窓会への参加、本学の留学生との交流およびネットワーク構築に貢献している。



日本語・日本文化研修コース等修了式

■問合せ先

<担当部署>

名古屋大学教育推進部学生交流課

住所 〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

TEL +81-(0)52-789-2198（直通）

FAX +81-(0)52-789-5100

E-mail iess@t.mail.nagoya-u.ac.jp

<ウェブサイト>

名古屋大学

<https://www.nagoya-u.ac.jp/>

言語教育センター

<https://lec.nagoya-u.ac.jp/>

コース概要

https://lec.Nagoya-u.ac.jp/jled/program_aj.html



三重大学 (三重県)

将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指し、
国際的に活躍する人を育てるためのコースです。

■ 大学紹介

① 大学の特色及び概要

◆三重大学は、文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部の5学部があります。また、大学院は、

人文社会科学研究科、教育学研究科、医学系研究科、工学研究科、生物資源学研究科、地域イノベーション学研究科の6研究科があります。キャンパスは三重県津市にあります。自然環境に恵まれ、津市の西側には山が連なり、大学のキャンパスのすぐ東側では海岸に波が打ち寄せます。歩いて海岸に散歩に行くこともできます。



〈2025年5月1日現在〉

◆学生数・教員数
学部学生数：5,988名
大学院生数：1,190名
教員数：751名
外国人留学生数：266名（29カ国）

◆環境先進大学

本学は独自の「三重大学環境・SDGs方針」を策定し、環境マネジメント活動に取り組んでいます。

② 国際交流の実績

◆三重大学は、外国の127大学・機関と、大学間または学部間の学術交流協定を結んでいます。これらの大学とは、教員・学生の交流、学術情報の交換などを行っています。〈2025年4月1日現在〉

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研究生）の受入れ実績

	留学生	日研究生
2025年度	266名	5名
2024年度	241名	5名
2023年度	261名	5名



◆三重大学国際戦略機構は、三重大学における国際交流の要として、本学の国際的な教育研究の充実、及び地域の国際化に寄与することを目的とし、様々な国際的な活動の企画・推進を行っています。

④ 地域の特徴

◆津市は、三重県の県庁所在地です。人口は約27万人、温暖な気候で暮らしやすいところです。交通も便利で、名古屋へのアクセスは約1時間、大阪・京都へは約2時間、東京へは約3時間です。

◆三重県は、文学・国学の豊かなところです。すでに8世紀には『万葉集』の詩歌にうたわれ、多くの小説の舞台となってきました。俳句を詠んだ松尾芭蕉は現在の三重県の地に生まれ、三島由紀夫が小説『潮騒』に描いた神島も三重県にあります。

◆三重県には多くの歴史的名所があり、たくさんの観光客が訪れます。伊勢市には「伊勢神宮」を中心とした多くの観光名所があり、亀山市の「関宿」は江戸時代の宿場町の街並みが保存されています。また、伊賀市は忍者の里として有名であるほか、熊野市を中心とする「熊野古道」は2004年7月に世界遺産に登録されました。

◆県内には多くのエンターテインメント施設もあります。鈴鹿市にある「鈴鹿サーキット」は日本のモータースポーツの聖地と言われ、世界各国から多くのファンが集まります。また桑名市には日本有数の遊園地「ナガシマスパーランド」があり、同じく桑名市の「なばなの里」は世界最高峰の花のテーマパークで、イルミネーションが人々を魅了します。



伊賀上野城



なばなの里



熊野古道

■ 研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

◆それぞれの指導教員の下、各自が設定したテーマに基づき、主体的に調査を進めます。

◆地域住民及び三重大学生、留学生との相互交流を通して、日本文化や異文化への理解を深めることができます。



③ 受入定員

7名（大使館推薦1名、大学推薦6名）

④ 受講希望者の資格・条件等

次の(1)と(2)の両方の条件を満たすこと。

- (1) 本国の4年制大学において、日本語・日本語教育・日本文化関係を専攻している人（2年生以上）。
- (2) 日本語能力試験N2以上か、それに相当する日本語力がある人（語彙を約4,000～6,000語、漢字を約600～800字以上、既に習得している人）。

⑤ 達成目標

日本語・日本文化の研究を通して、母国と日本のかけはしとなる学生の育成。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年8月下旬
（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

◆後期（秋学期）

- 9月 渡日／オリエンテーション
- 10月 日本語プレースメントテスト
- 10月 授業開始
- 10月 学外研修
- 11月 大学祭
- 12月 国際交流デイズ
- 2月 授業終了
- 2月 日本語日本文化研修・中間発表会
- 3月 学外研修



◆前期（春学期）

- 4月 授業開始
- 5月 学外研修
- 7月 日本語日本文化研修・最終発表会
- 8月 授業終了
- 8月 盆踊り大会
- 修了式／帰国



⑨ コースの修了要件

研修（授業）が始まる前に、日本語プレースメントテストを受けます。プレースメントテストの結果により、中級Ⅱレベルか上級レベルに判定されます。
必修科目（日本語日本文化研修生専用科目・中級Ⅱレベル科目・上級レベル科目）及び選択科目から、各学期合計7科目以上受講し、また日本語による研修発表（中間発表会・最終発表会）をします。
成績判定は、教員による成績会議で総合的に判断されます。良い成績を収めてコース修了が認められた学生には、成績証明書及び修了証書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

◆日本語や日本文化、または三重県に関係するテーマを決めて、担当教員の指導のもと調査または実践活動を進めます。

2月中旬：日本語日本文化研修・中間発表会

7月中旬：日本語日本文化研修・最終発表会



2) 研修・コース開設科目（全て90分×16回／学期）

I) 必修科目

◆日本語・日本文化研修生専用科目

授業名	内容
(1) 日本語・日本文化演習	自分のテーマを決めて、担当教員の指導の下、個別に調査を進める。

◆中級Ⅱレベル科目

授業名	内容
(2) 中級Ⅱ：会話	自分の意見を述べ、ディスカッションや発表する力を涵養する。
(3) 中級Ⅱ：聴解	映像・音声教材を通して、生の日本語を聞き取り、聴解力を高める。
(4) 中級Ⅱ：作文	既習の文法事項や語彙を使って、論理的な文章を書く力をつける。
(5) 中級Ⅱ：文法	中・上級レベルの文法を理解し、産出できる実践的な能力を養う。
(6) 中級Ⅱ：読解	文章の中の語彙や文法を理解し、全体の趣旨を理解する能力を育む。
(7) 中級Ⅱ：日本語で学ぶ三重の文化	三重県の名所を訪れ、文化を学び、三重県外の人々に紹介する。

◆上級レベル科目

授業名	内容
(8) 上級：ビジネス日本語	日本での就職活動や、就業にあたって必要な日本語を学ぶ。
(9) 上級：日本事情	日本社会の出来事や状況を学びながら、日本語能力を上達させる。
(10) 上級：国際共修で学ぶ多文化	日本と様々な国の文化や社会について、日本人学生と共に議論し、学ぶ。
(11) 上級：作文	専門分野学習で必要とされる学術的な論文の書き方の基礎を学ぶ。

Ⅱ) 選択科目（英語科目）

授業名	内容
(12) 英語でエッセイ	事例やデータに基づいた英語エッセイの書き方を学ぶ。
* その他	複数の新しい英語科目が開講される予定です。

3) 見学・地域交流等の参加型科目

以下の科目では、三重県の様々な場所を訪問して地域の文化について学びます。

◆日本語で学ぶ三重の文化 [= 2)-I) 必修科目(7)]



4) 日本人学生との共修等

以下の科目は、留学生も日本人学生も受講し、ディスカッションやエッセイ作成を通して共に学ぶことができます。

◆国際共修で学ぶ多文化 [= 2)-I) 必修科目(10)]

◆英語でエッセイ [= 2)-II) 選択科目（英語科目）(12)]



⑪ 指導体制

- ◆松岡知津子准教授（専門：教育学・文法）
- ◆正路真一講師（専門：心理言語学・第二言語習得）

■ 宿舎

三重大学には現在留学生用の宿舎が三つあります。

「外国人留学生寄宿舎」は、留学生と日本人学生が部屋をシェアして共同生活し、異文化交流を通してグローバルな視点を持てる場となっています。

①外国人留学生会館（改装中）

②外国人留学生寄宿舎（2009年/2015年建設） 月額 7,500円～30,000円

③国際女子学生寄宿舎（1973年建設） 月額 5,900円



②外観



②共用キッチン



ミールド
（三重大学
マスコット
キャラクター）



シロモチくん
（三重県津市PR
キャラクター）



②居室ダイニング



③居室

■ 修了生へのフォローアップ

修了生と在校生の交流を目的に、12月の国際交流デイズ等でイベントを開く予定です。

■ その他の学習支援体制

◆日本語チューター

三重大学生が留学生の日本語の向上や日本文化への理解を深める機会を与えます。日常生活のサポートもします。

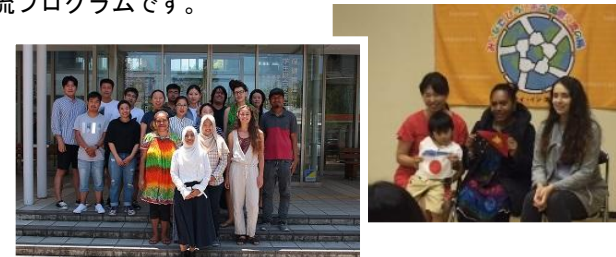
◆インターナショナルグループ

三重大学生による国際交流サークルです。一緒にイベントを企画したり、イベントに参加したりしながら、国際的な友達の輪を広げます。



■ ホストファミリー・プログラム

「セカンド・ホーム」というプログラムに登録し、週末や休日と一緒に楽しく過ごすためのホスト・ファミリーを持てる可能性があります。約30年の歴史を持つ市民交流プログラムです。



■ 問合せ先

<担当部署>

三重大学企画総務部国際戦略機構

住所：〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

TEL：+81-59-231-9688（直通）

FAX：+81-59-231-5692

Email：ryugaku@ab.mie-u.ac.jp

<ウェブサイト>

三重大学国際戦略機構

<https://www.mie-u.ac.jp/international/index.html>

三重大学

<https://www.mie-u.ac.jp/>

